第27回FDフォーラム
報告集

第11分科会

大学教育におけるつながりの
リ・デザイン

報告者

中元 崇 氏　京都大学 情報部 掛長

山咲 博昭 氏　広島市立大学 企画室 特任助教

コメンテーター

中水 かおる 氏　一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸 統括コーディネーター

コーディネーター

山口 洋典 氏　立命館大学 共通教育推進機構 教授

P1～　コーディネーターによる総括　山口 洋典 氏

P4～　趣旨説明　山口 洋典 氏

P16～　講演1.「全国の大学・短期大学における単位互換科目のあり方について」
中元 崇 氏

P24～　講演2.「質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来」
山咲 博昭 氏

P36～　コメント「大学間連携と単位互換
単位互換リーディングサークルに参加して」
中水 かおる氏

〈第11分科会〉

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

コーディネーター
山口 洋典 氏（立命館大学 共通教育推進機構 教授）

第 27 回 FD フォーラムの第 11 分科会は、2 月 27 日の 9 時 30 分から Zoom ミーティングにて開催された。タイトルに掲げた「大学教育におけるつながりのリ・デザイン」は、FD フォーラムを主催する大学コンソーシアム京都が、その前身である「京都・大学センター」時代から取り組んできた単位互換制度を見つめ直す機会としたい、という企図により掲げたものである。そのため、特に制度面に関わる部分で同一のコーディネーターが担当したシンポジウム 2（同日の午後に開催）とも関連する部分があるので、本分科会の資料（各々が加筆修正の上で提供）に加えてシンポジウム 2 の資料も参照いただきたい。なお、32 名の参加申込者のうち、ライブで参加いただいたのは 18 名だった。

まず、コーディネーターから趣旨説明がなされた。その際、前述のとおり、シンポジウム 2 との関連に加えて、2021 年度を通して展開している大学コンソーシアム京都の指定課題調査に採択された「大学のまち・京都のコア・バリューの再探究：単位互換の未来が拓かれるために」の成果公開とも位置づけられていることが示された。加えて、今回は 10 月から 1 月にかけて取り組んできた大学向け調査（1,080 件対象）の報告を行うこと、それらに先行して 6 月から 7 月にかけて行った大学コンソーシアム向け調査（48 機関対象）については 9 月 11 日に行われた「第 18 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」のポスターセッションで発表を行っていることが確認された。その上で、指定課題調査での共同研究者の中元崇さん（京都大学）から大学向けの調査報告、研究協力者の山咲博昭先生（広島市立大学）から結果解題、そして指定課題調査の一環で行ってきた「オンラインサロン」に積極的に参加いただいて一連の調査に伴走をいただいた中水かおるさん（大学コンソーシアムひょうご神戸）にコメントをいただくという流れが示された。

続いて中元崇さんが、前掲の大学調査の結果（11 月 12 日発送・最終入力 1 月 23 日、不完全な回答を除き、405 件を有効回答として取り扱い、回収率 37.5%）を報告した。概要として大学コンソーシアム型の単位互換制度は 6 割強の大学等が実施していること、時間的な抑制要因（学生の多忙さや他大学との距離）が大きなものとして捉えられていること、多様な学生の交わり・つながりによるケミストリが十分に生じていない可能性があること、学生が積極的に学外の単位互換科目を履修しているとは認識されていないこと、今後の単位互換科目の形式として遠隔形式のニーズが高いこと、科目内容としてデータサイエンス、大学生としてより良く生きる、職業キャリアや就職、知的財産・産学連携・起業に関するニーズが高いこと、複数科目のパッケージ化のニーズは低いこと、などが明らかになった。今後の展開としては(1)質保証の観点のもと自大学の特定のカリキュラムの意図に沿って他大学との相乗効果をマネジメントする、(2)遠隔講義を活用することで物理的な制約を越えた展開を図る、(3)他大学・自大学の学生が混在することによるケミストリーの生成を追及する、の 3 つのシナリオが考えられる、とされた。今後の課題として、自身の学生時代の（いわゆる）「モグリ」体験を振り返った上で、学びとの出会いでは「刺さる」ものもあれば「忘れる」ものもあることに触れつつ、制度化のもとでの「質保証」とゆるやかな制度としての「野生の学び」との併存をどう担保するか、という点が挙げられた。

これらの結果の報告に対し、山咲博昭先生が関連する直近の大きな政策動向を整理しつつ解題した。特に中元さんが最後に触れた大学評価・質保証の観点から、(1)ディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標と単位互換科目がどのように紐づいているのか、(2)カリキュラム・ポリシーを踏まえて教育課程が体系的に編成されているか、(3)単位互換科目を含めてどの

〈第11分科会〉

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

コーディネーター
山口 洋典 氏（立命館大学 共通教育推進機構 教授）

ように学修成果の把握を行うのか、(4)成績評価基準等を踏まえた単位認定が実施できているのか、これら4点が論点となると示された。また、今後のニーズとして「キャリア・データサイエンス系」や「大学生としてより良く生きるための科目」への要望が高いことから、単独開講が難しい科目や学生相互の交流による効果がある科目への期待が高いことがわかるものの、単純に単位互換科目として開講・提供されるだけでなく、カリキュラムマップなど教学マネジメントの上では学内関係者の調整能力のもとで自大学開講と単位互換の組み合わせ（前期を自大学受講として後期を単位互換受講など）も選択肢となるのではないか、と分析した。調査にかかる全体のまとめとして、単位互換制度の展望としては(1)大学が主体となってカリキュラムマネジメントを行う、(2)大学間の調整を大学コンソーシアムが担当する、(3)大学内ではマネジメント担当部門を明確化する、(4)学修時間の確保のためにオンライン講義を活用する、(5)質保証のためにアセスメントや成績評価方法の共通認識を持つ、これらが連続的・複合的になされることが重要であるとした。

こうして調査報告と結果解題を受けて、中水かおるさんからコメントとして 4 点の問いかけがなされた。それらは(1)大学間連携（コンソーシアム）で「学生を教育する」ことが必要ですか、(2)単位互換でしか実現できない「学び」と「学び場」はどんなことですか、(3)自学で単位互換科目を選定・デザインする時何を重視されていますか、(4)コンソーシアムの単位互換の難しさ・期待することは何ですか、である。そして、これら4つを問いかけた背景について、大学コンソーシアムひょうご神戸（2006 年設立）の取組の紹介の上で、前掲のオンラインサロン形式での読書会「単位互換リーディングサークル」の感想が示された。大学コンソーシアムひょうご神戸ではコロナ禍において私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」プラットフォーム型に採択され、改めて兵庫県内の大学は農場・船上などの学びの場の多様性や阪神・淡路大震災の経験を踏まえた防災・減災の取組という地域性に関心を向けているものの、大学コンソーシアムによる先行的・先導的な取組と個々の大学での個別的・積極的な展開が共存するためには、科目の企画・開発・運営への職員の参画と、多彩な学生の履修を通じて自大学のよさが他大学の学生と触れることで実感できることが重要ではないか、と指摘した。

その後は休憩を挟んだ上で、参加者と共に意見交換を重ねた。Zoom ミーティングでの実施ということもあり、直接の対話だけでなく、チャットも活用し、できるだけ相互のやりとりが重ねられるような進行とされた。

こうした対話を経て見出した、改めて単位互換制度を基軸とした「大学教育におけるつながりのリ・デザイン」への手がかりを記しておきたい。まずは担い手について、少なくとも当面は大学コンソーシアムが調整役となりつつも、単位互換は個々の大学があっての制度であり、個々の大学に制度の企画・運営のキーパーソンの存在と役割が一層重要な局面にある。そのため、制度の管理や運用にあたっては個々の大学で定める3ポリシーと単位互換をどのような位置づけのもとで関連づけ、実際にどう機能するかの方針を熱意と使命感の両面から決める必要がある。そうして初めて、自大学の自学部だけでは深めきれない学びのコミュニティへ誘っていく素地が整うこととなろう。

そもそも単位互換制度という名称は学生の卒業要件を管理する大学側から見た名称であり、学習者を中心にした名称ではないことにも注意が向いてよい。例えば「レンタカー」が車両を管理・提供する側の名称で「カーシェア」が利用者の側から捉えたサービスの名称で

〈第11分科会〉

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

コーディネーター
山口 洋典 氏（立命館大学 共通教育推進機構 教授）

あるとするなら、大学間共修プログラムなど読み替えるのも、学生が学び方を学ぶ、転じて学び方への関心を向ける契機となるのではなかろうか。冒頭に記したように、本分科会と深い関連のあるシンポジウム 2 では、新たな政策動向として「連携開設科目」や「大学等連携推進法人」を取り上げており、別の見方をすれば単位互換制度を含む大学間連携事業が補助金獲得の手段として活用される場合もあろう。コロナ禍において、感染対策は都道府県単位でのルールづくりよりも生活圏・文化圏に即して行うことの方が妥当とされる見方もあることを鑑みれば、学びの実感がもたらされるオフラインでの大学間共修の場づくりにより、物理的な距離を越えて連携・協力が可能なオンラインでの学習環境創出・維持・発展との好循環をもたらす仕組みと仕掛けとなることが、単位互換制度を基軸とした「大学教育におけるつながりのリ・デザイン」となると捉えている。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

2021年度　第27回FDフォーラム

大学教育の「場」を問い直す

2/27(日) 9:30～11:30 | **第11分科会** | 定員　80名（加盟校優先定員：48名） | 講義形式 | Zoomミーティング | 録画あり

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

今後の少子高齢化社会及びグローバル化の進展の中、高等教育機関にもまたその存在意義の問い直しが求められている。また、大学等連携推進法人制度の導入準備も進み、個々の大学の個別の実践だけでなく、大学間連携による質の向上も課題の一つとしてあげられる。本分科会では、地域特性を反映した学びの場づくりの実践として各地で展開されてきた単位互換制度に関する大学コンソーシアム京都による全国調査の結果をもとに、大学教育に関するネットワーキングの未来を展望する。

コーディネーター ▶ 山口 洋典氏　立命館大学 共通教育推進機構 教授
報告者 ▶ 中元 崇氏　京都大学 情報部 掛長
山咲 博昭氏　広島市立大学 企画室 特任助教
コメンテーター ▶ 中水 かおる氏　一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸 統括コーディネーター

https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum

2021年度 第27回FDフォーラム

大学教育の「場」を問い直す

オンライン開催

2022. 2/19(土) 20(日)
26(土) 27(日)

● 申込期間
大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学の方
1/5(水) 10:00 ▶ 2/5(土) 17:00
上記以外の方
1/18(火) 10:00 ▶ 2/5(土) 17:00

主催：大学コンソーシアム京都　後援：文部科学省・京都府・京都市

シンポジウム2

2/27(日)13:30～16:00 | 定員 1,000名（加盟校優先定員：600名） | 講義形式 | Zoomウェビナー | 録画あり

科目・教養・教員の未来
～コロナ禍を経たこれからの大学教育を展望する

「ないものを創る」ことと「あるものを活かす」ことは、決して相反する価値ではない。そうした中、大学教育にかかわって、「あるものを活かしつつ、ないものを創る」多彩な実践が展開されている。例えば、単位互換から連携開設へ、一般教養からリベラルアーツへ、FDからプレFDへ、こうした動きは大学の、地域連携の、そして教員の存在と役割を改めて問い直すものとして位置づけられる。本シンポジウムでは、3名の報告と参加者との対話により、大学教育の未来を構想・共創する。

シンポジスト

清水 一彦氏　山梨大学 理事・副学長（企画・評価・内部統制）
経歴
1952年山梨県生まれ。専門は教育制度学、高等教育研究で博士（教育学）。東京教育大学、筑波大学を卒業・修了後、清泉女学院短期大学講師・助教授、筑波大学教育学系講師・助教授・教授を歴任。筑波大学で副学長・理事を6年間務めた後、2015年より山梨県立大学の理事長・学長に。2021年より山梨大学理事・副学長となり現在に至る。筑波大学名誉教授・山梨県立大学名誉教授。
主な活動、著書
『日米の大学単位制度の比較史的研究』（風間書房）や『平成の大学改革を斬る』（協同出版）など著書多数。文部科学省中央教育審議会大学分科会臨時委員、全国大学実務教育協会代表理事・副会長や日本教育制度学会会長など、活躍の幅も広い。
また、山梨県立大学学長在職中の2019年5月23日、山梨県・山梨大学と連携協定を締結し「一般社団法人大学アライアンスやまなし」の設立（2019年12月18日）を牽引。その後、大学アライアンスやまなしは2021年3月29日に全国初の大学等連携推進法人に認定され、連携開設科目制度の活用により、多様かつ幅広い教養科目や関連領域の専門科目の充実が図られている。

藤田 瀧氏　一般財団法人三菱みらい育成財団 常務理事
経歴
1950年生まれ、岩手県出身。東京大学経済学部卒。1983年三菱商事(株)に入社し人事第一部（4年）に。
首都圏事業部、都市開発事業部で都市開発に従事（5年）した後、食料開発室（1年3か月）、業務総括部（9か月）を歴任し、1995年人事部に復帰。1998年より英国に駐在（3年半）の後、2002年1月人事子会社ヒューマンリンク(株)に出向、10月より同社社長（6年半）。
2009年より人事部長（5年）、2014年総務部長（2年）、2016年東北支社長（3年）を経て、2019年4月新財団設立準備室長に。10月より現職。
主な活動、著書
三菱商事御社人社後は開発プロジェクトや人事関連の経験が長いが、直近の約3年は三菱みらい育成財団常務理事として若者の教育関連に従事。

瀬崎 楓斗氏　同志社大学 社会学部 教育文化学科 4年
経歴
1998年北海道旭川市生まれ。研究分野は高等教育、大学教育開発。特に、高等教育における大学教員養成、プレFDに関心を持つ。
2017年北海道旭川東高等学校卒業。2022年3月同志社大学社会学部教育文化学科を卒業予定。同年4月より東京大学大学院新領域創成科学研究科（修士課程）に進学予定。
その他、NPO法人日本教育再興連盟（ROJE）関西学生事務局、学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校・S高等学校TAインターンシップ、文部科学省スキームD 2021年度ピッチ・アクター等の教育実践活動に従事。
主な活動、著書
NPO法人ROJE関西教育フォーラム2019にて、企画代表・学生登壇者を務める。文部科学省スキームD 2021年 University Pitch and Conference にて、「大学院生の教育スキル向上を主目的としたオンラインコミュニティの設立」をタイトルに発表。

コーディネーター

山口 洋典氏　立命館大学 共通教育推進機構 教授
経歴
1975年静岡県磐田市生まれ。専門は社会心理学、特にグループ・ダイナミクス。
ネットワーク型まちづくり、災害復興、サービス・ラーニングなどをテーマにアクションリサーチを展開する。財団法人大学コンソーシアム京都事務局研究主幹、浄土宗應典院主幹、同志社大学院総合政策科学研究科助教授・准教授を経て2011年度より立命館大学共通教育推進機構准教授、2020年度より現職。
2017年にデンマーク・オールボー大学で参加型学習を比較研究。
主な活動、著書
著書に『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』（法律文化社、共著）『はじめてのファシリテーション』（昭和堂、共著）など。2019年度・2020年度には立命館SDGs推進本部事務局長。2020年度より立命館大学教養教育センター副センター長

事業内容について
- 単位互換
- 生涯学習
- インターンシップ
- 高大連携・接続
- FD
- SD
- 国際連携
- 京都学生祭典
- 京都国際学生映画祭
- 障がい学生支援

指定調査課題

事業概要 | 2022年度募集について　※受付終了しました
研究報告会について | お申込み・お問合せ先

事業概要

大学コンソーシアム京都（以下、「財団」という。）は、1994年の設立以来、加盟大学・短期大学（以下、「加盟校」という。）と、会員である地元自治体・経済団体をはじめとする京都地域の諸団体との連携のもと、全国に先駆けて様々な事業を実施してきました。一方、財団設立から20年以上が経過し、財団や大学を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

そこで、事業の見直し・改善や、新規開発・高度化、財団加盟校への情報提供を目的に、財団では2015年度から指定調査課題を設定し、専門分野の研究者による調査研究を行っています。

2021	1	テーマ	大学のまち・京都のコア・バリューの再探究： 単位互換の未来が拓かれるために
		研究代表者	立命館大学 共通教育推進機構・教授　山口　洋典

※研究代表者の所属・役職名は採択当時のものです。

2022年度募集について［※受付終了しました］

以下のテーマについて、研究者（研究グループ）を募集します。
なお、募集に関する詳細は、以下の募集要項をご確認ください。

応募期間

2021年12月9日（木）～2022年1月31日（月）【必着】［※受付終了しました］

調査研究テーマ

テーマ1	多様性の包摂に向けた合理的配慮の取組事例調査と大学間連携組織の可能性
テーマ2	京都地域における効果的な地域連携活動

調査研究費

1件あたりの調査研究費は、150万円を上限とします。

テーマ	大学コンソーシアム京都における単位互換事業のあり方について

大学のまち・京都のコア・バリューの再探究

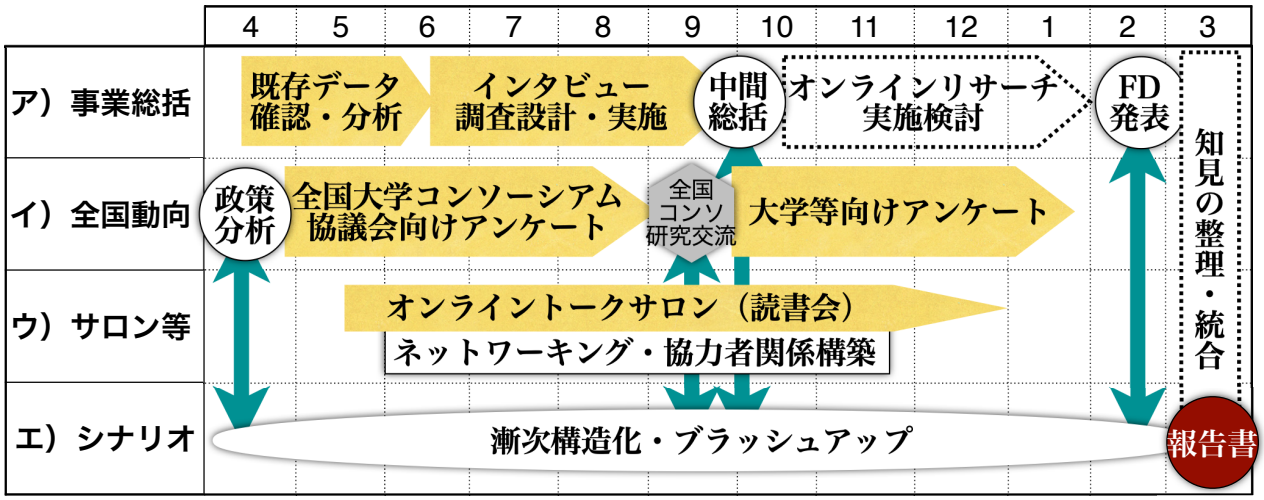
単位互換の未来が拓かれるために

山口 洋典（立命館大学）・中元 崇（京都大学）

これまでの単位互換制度の現状と課題を、質的アプローチ（文部科学省等の政策文書や財団（任意団体の時代を含む大学コンソーシアム京都を指す、以下同様）が保有するデータ等の分析、財団の単位互換関係者へのインタビューやトークセッションを通じた関係者の解釈解明）と量的アプローチ（全国の大学コンソーシアム組織や、全国の各大学・短期大学を対象とするアンケート調査）を組み合わせた混合研究により解明し、単位互換制度の今後のあり方について提言を行います。

調査研究内容

定量的・定性的な研究手法を効果的に組み合わせた混合研究を通じて、募集要項に示されていた以下の4点に対して取り組みます。代表者の山口は全体統括と共に主にア、ウ、エを、共同研究者の中元は主にイを担当します。また適宜、研究協力者の助言等で内容の充実を図ります。



Web Poster Session

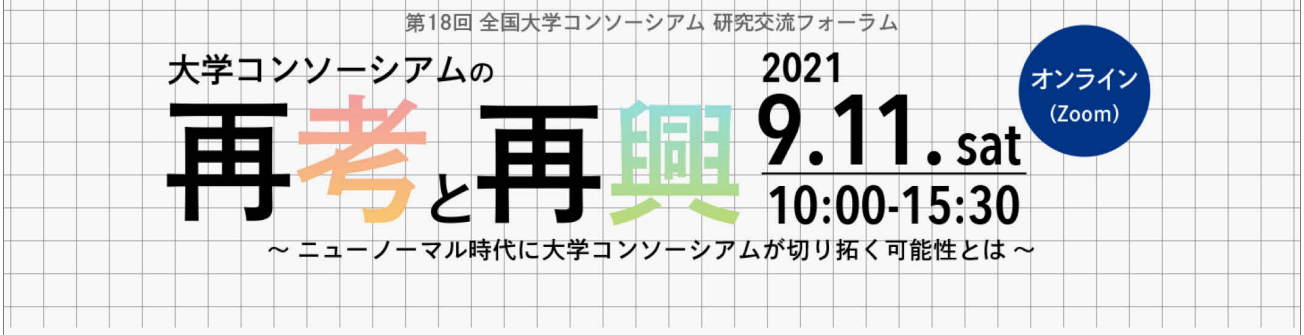
ポスターセッション

12:30-13:30 ポスターセッションコアタイム（受付 12:15～）

・全国大学コンソーシアム協議会 加盟10団体が、各コンソーシアムの特色ある教育に関する取組事例について発表します。
・Zoomミーティング（ブレイクアウトルーム）を使用し、オンラインでポスター発表及び質疑応答を行います。

下記Zoomミーティングにアクセスいただき、ご入室ください。

トップ　開催趣旨　スケジュール　プログラム概要　ポスターセッション　全国大学コンソーシアム協議会　協賛企業　お問い合せ



ルーム5　公益社団法人　大学コンソーシアム京都

出展テーマ

大学コンソーシアムにおける単位互換事業の現在～全国調査速報～

概要

大学コンソーシアムでの単位互換事業は加盟校の学生らに新たな学びの経験を提供し、かつ特色ある科目開発を通じた加盟校の連携・協力を促進する契機となっています。一方、授業のオンライン化など、コロナ禍を前後して学びの制度と様式が大きく変化しています。2021年度、大学コンソーシアム京都では単位互換をテーマとした指定課題調査が進められており、本報告ではそのうち全国大学コンソーシアム協議会の会員向けのアンケート結果を速報として報告します。

時間配分

10分	ポスターの閲覧、コメント収集、個別質問対応。
10分	概要説明
10分	参加者との対話
10分	概要説明
10分	参加者との対話
10分	寄せられたコメント・質問の再整理、個別質問対応。

このポスターは 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 The Consortium of Universities in Kyoto 2021年度指定課題調査の一環です

大学コンソーシアムにおける単位互換事業の現在
―全国調査速報―

山口 洋典（立命館大学）
中元 崇（京都大学）
山咲 博昭（広島市立大学）

大学コンソーシアムでの単位互換事業は加盟校の学生らに新たな学びの経験を提供し、かつ特色ある科目開発を通じた加盟校の連携・協力を促進する契機となってきた。一方、授業のオンライン化など、コロナ禍を前後して学びの制度と様式が大きく変化している。2021年度、大学コンソーシアム京都では単位互換をテーマとした指定課題調査が進められており、本報告ではそのうち全国大学コンソーシアム協議会の会員向けのアンケート結果を速報として報告する。

調査の趣旨

単位互換履修者の減少が続く中での指定課題調査の展開

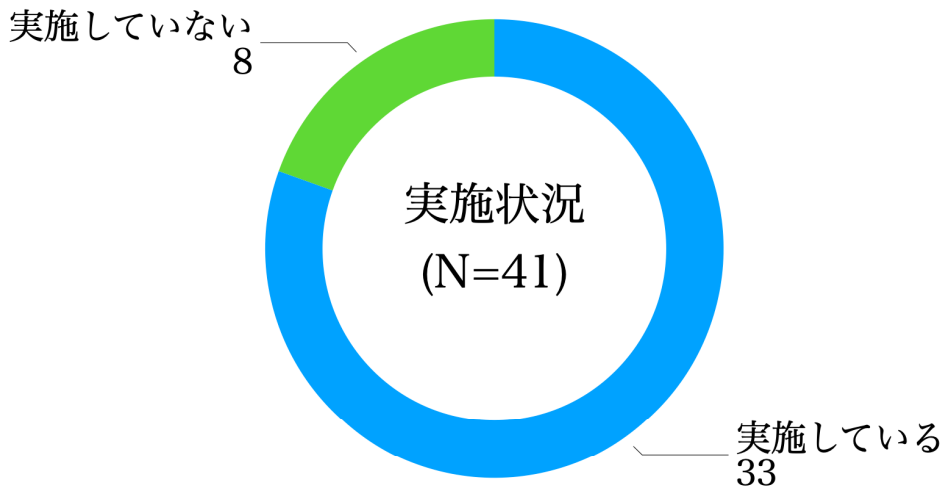
- **調査の前景**
  - 単位互換履修者の減少
  - 各大学を取り巻く環境や学生の学びスタイルの変化
  - コロナ禍でオンライン化等など授業自体のあり方が変化
  - 大学設置基準等の改正(2021.2)で連携開設科目が導入
- **調査概要**
  - 大学コンソーシアム京都の指定課題研究として実施
  - 大学コンソーシアム協議会加盟コンソーシアムを対象
  - 2021.6.8～7.13、Web調査（督促なし）
  - 48機関中41機関からの回答

https://jp.surveymonkey.com/r/J63LNWZ

結果1.実施状況

約8割が実施で各コンソーシアムの実情に応じた事業と捉えられる結果に

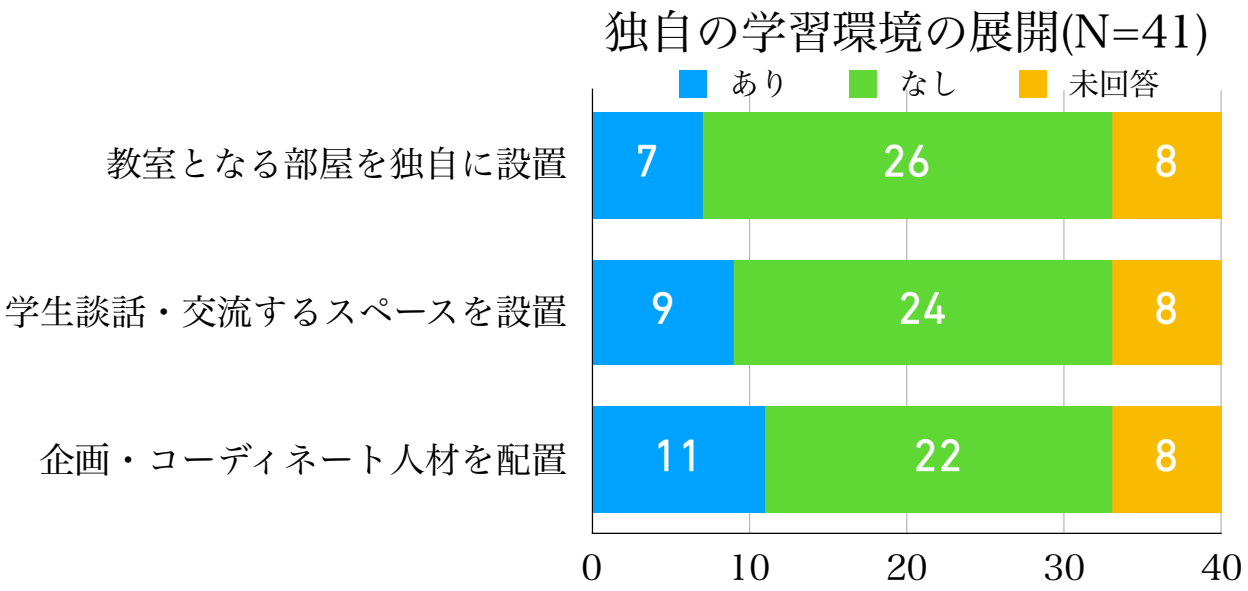
- 単位互換事業は大学コンソーシアムとしてのベーシックな取り組み
- とはいえ2割弱は実施していない（実施：非実施＝80.5%：19.5%）



結果2.独自の学習環境の展開状況

スペースを授業や学生に提供できる大学コンソーシアムは2割程度

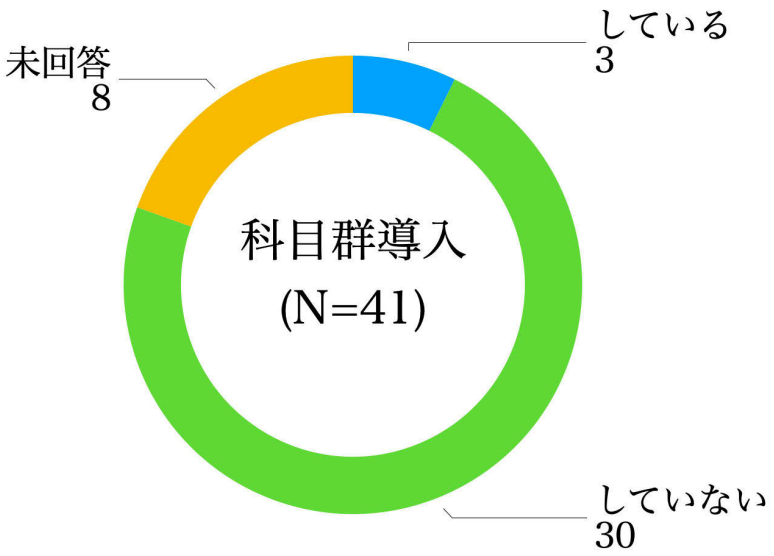
- 共通スペースを持たないことを前提に各事業が企画検討と捉えられる



結果3.パッケージ科目の導入状況

アラカルト的に学生が選択・履修するスタイルが想定

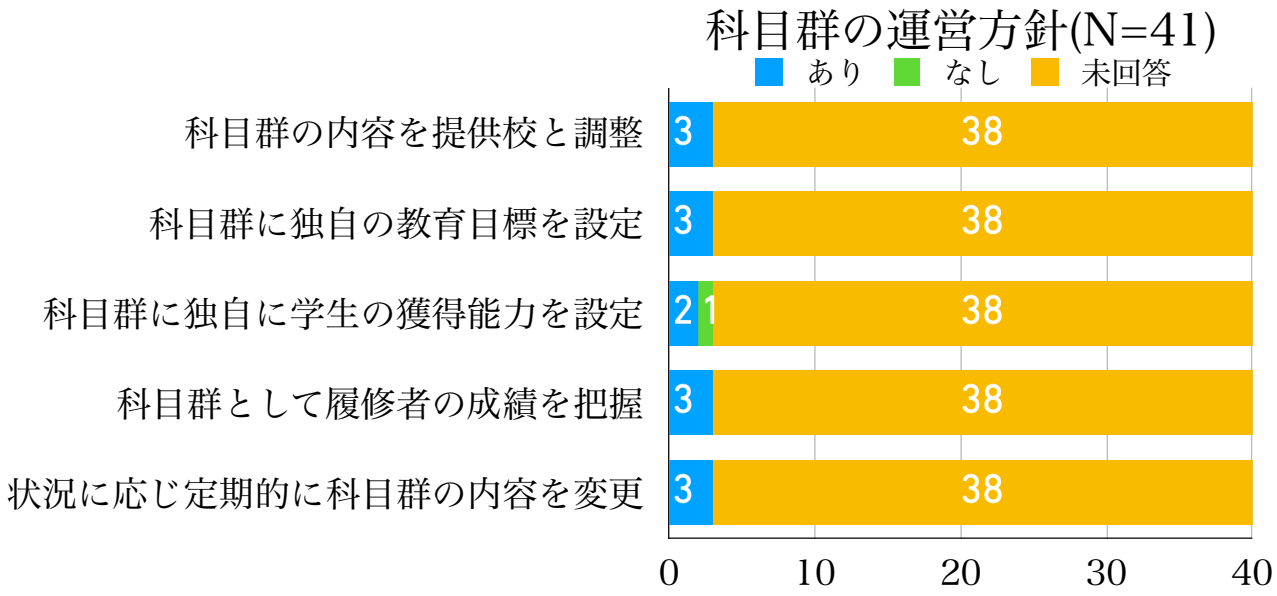
- **多くの大学コンソーシアム内で単位互換科目は特に組み合わされていない**
  - 改良・改善・改革の余地があるのではないか



結果4.パッケージ科目の運営状況

導入されている場合は目標設定や見直しなどのマネジメントが実施

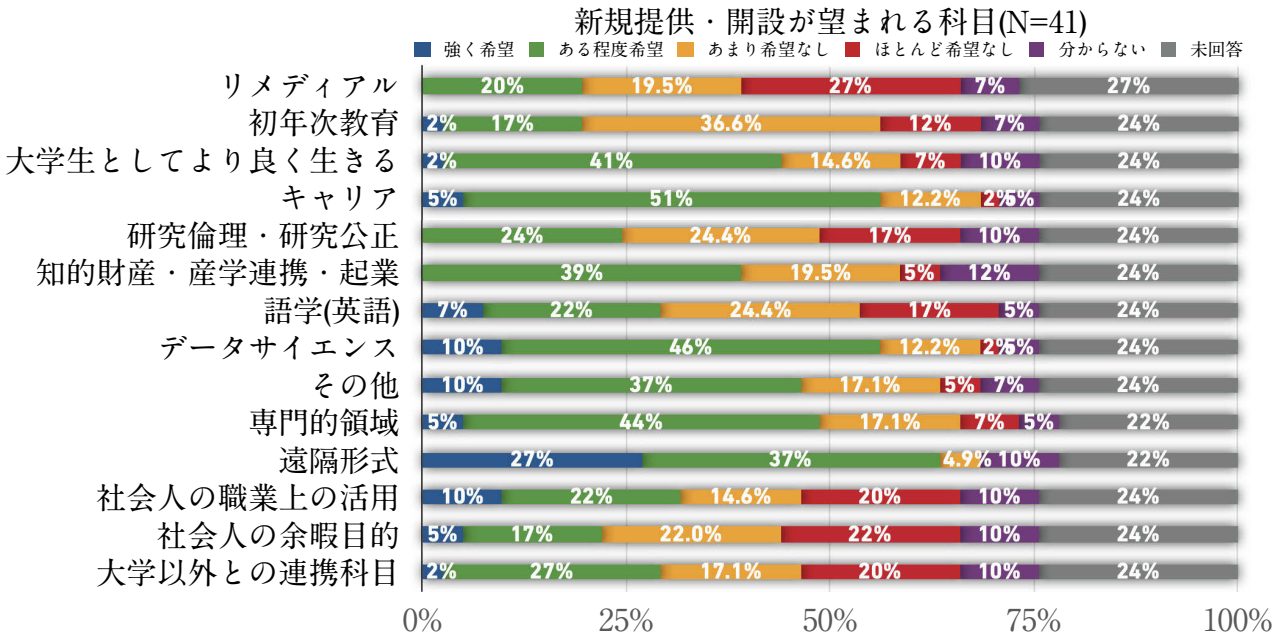
- **「未回答」は導入コンソーシアムが少ないことを反映**



結果5.新規提供・開設の希望科目

方法は遠隔形式で内容はキャリア系・データサイエンス系のニーズが高い

- **リメディアルや初年次教育、研究倫理・研究公正、社会人対象のニーズ低**



結果6.単位互換事業への現状認識

単位互換科目の調整や開発が行われているコンソーシアムは限られる

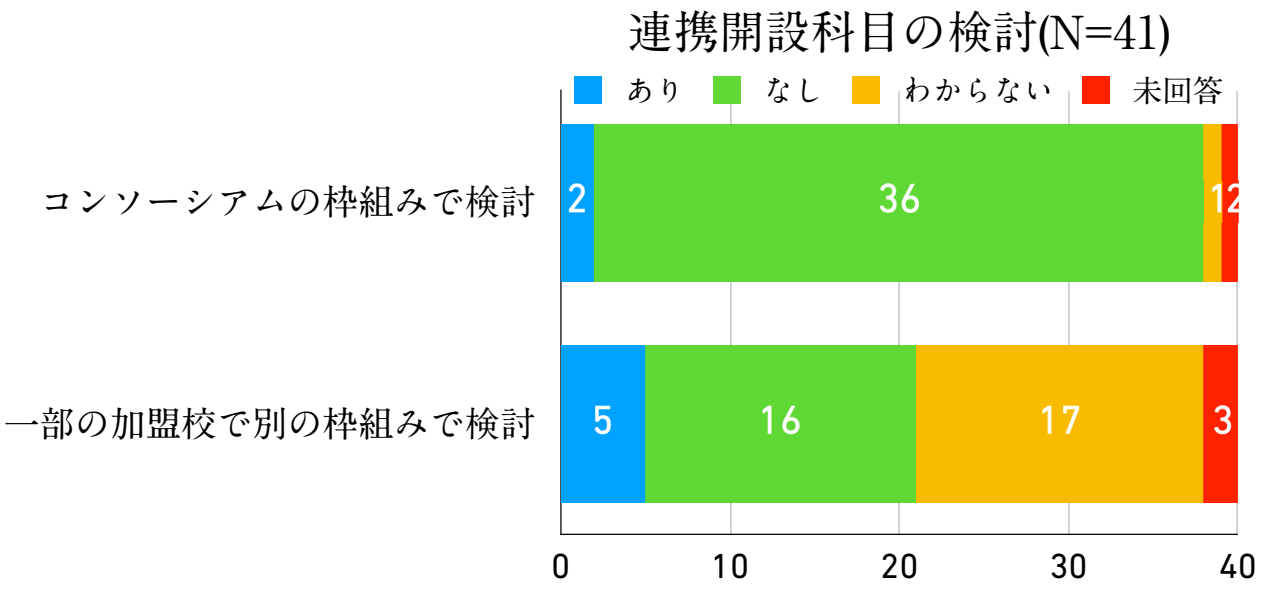
	大変当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	分からない	未回答	合計
単位互換科目数に不足を感じる	1	6	17	6	2	9	41
単位互換科目の加盟校間負担バランスが取れていないと感じる（例：一部の加盟校の科目に受講者が集中）	6	12	11	2	1	9	41
既存の単位互換科目の内容に関し、加盟校と何らかの調整を行うことがある	2	9	7	11	2	10	41
コンソーシアムとして新規科目のコーディネートを積極的に行っている（講師・内容・開設校の調整等）	1	7	8	15	1	9	41

- **総体としての科目数はあまり問題とされていない**
- **一方でバランスが取れていないと感じるコンソーシアムもある程度多い**

結果7.連携開設科目への取り組み

連携開設科目が制度的に認められて以後、一定の検討が進められている

- **コンソーシアムの枠組みでの検討の他に別の枠組みで検討の地域も**



結果8.事業運営全般への現状認識

大半のコンソーシアムは加盟校における認識等の地歩を確保できている

	大変当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	分からない	未回答	合計
事業はコンソーシアムの加盟校内で十分認知・浸透している	2	26	10	0	1	2	41
加盟校の学長は相互に十分コミュニケーションを取っている	3	20	13	1	2	2	41
加盟校の関係者（運営委員など）は関係者相互で十分コミュニケーションを取っている	5	27	6	0	1	2	41
正式な会議体とは別に関係者間の非公式・フラットなコミュニケーションの場がある	1	11	21	5	1	2	41
加盟校からコンソーシアムに提案(既存事業の改善や新規事業の提案)がよくなされている	2	6	27	4	0	2	41
コンソーシアム側から加盟校に何かしらの提案を行う際、加盟校の反応は速い	3	23	9	1	3	2	41
コンソーシアムの個々の事業には、明確な目標を設けることが必要だ	7	28	2	0	2	2	41
コンソーシアムに対する加盟校のニーズを定期的に把握する取り組みが必要だ	8	30	1	0	0	2	41

- **加盟校からの提案・リクエストは消極的と見受けられる**
  - 事業体でなく協議会として非公式的なコミュニケーションの場として機能？

結果9.運営側に求められる能力等

様々な能力が求められる中「調整能力」はその第一として位置づけられる

	大変必要である	ある程度必要である	あまり必要でない	ほとんど必要でない	分からない	未回答	合計
高等教育情勢に関する広範な知識	13	26	0	0	0	2	41
加盟校に関する深い理解	11	27	1	0	0	2	41
頻繁な加盟校の訪問	3	11	22	3	0	2	41
迅速な行動力	9	29	0	0	1	2	41
新規事業等の発想力	7	29	2	0	1	2	41
状況の曖昧さに耐える能力	4	24	6	2	3	2	41
関係者相互のつながりを形成する能力	12	27	0	0	0	2	41
関係者への高等教育情勢等の情報の伝播	6	24	9	0	0	2	41
関係者との調整能力	19	20	0	0	0	2	41
コンソーシアムの最高責任者の補佐	11	26	1	0	0	3	41
行政や企業等とのネットワーキング	9	26	2	0	2	2	41
既存の事業の遂行・指導能力	11	28	0	0	0	2	41
運営のための強い権限の保持	2	25	11	1	0	2	41
運営責任者としての自覚・責任感の保持	11	28	0	0	0	2	41
運営責任者を補佐・支援する人材の配置	11	27	0	0	1	2	41

- **強い権限で何かを動かすのでなく多様・多彩なネットワーキングを駆使**
  - 頻繁な加盟校訪問（御用聞き？）でなく牽引役となるリーダーの補佐が期待

考察～加盟校任せではないマネジメントが必要？～

(1)単位互換科目の提供はベーシックな取り組みである

- 多くの場合加盟校が提供するに任せられたままではないかという印象
- そのため加盟校間のバランスの問題も発生
- 「提供できるから提供してもらう」ではない何らかのマネジメントの必要性が示唆

(2)新たにキャリア系科目、データサイエンス科目が望まれている

- 現在のようなアラカルト的な提供で教育効果が広がらないのではないか
- 学生所属校の既存のカリキュラムと接続されるマネジメントが必要なのではないか

(3)形態として遠隔形式のニーズが高い

- COVID-19対応の一環として各大学でオンライン授業が進展してきたのは事実
- 単位互換事業がこれまで抱えてきた「距離」「場所」問題の解決ともなりうる
- 対面授業とは異なる労苦・コスト発生への枠組みの策定・マネジメントが必要

各大学コンソーシアムの関係者の皆さまの調査協力、大学コンソーシアム京都の支援、そして本日お越しくださった皆さまに記して謝意を表します。

ご意見・ご感想・ご質問などはgucci@fc.ritsumei.ac.jp（山口洋典）までお寄せください

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 The Consortium of Universities in Kyoto

2021年度　第27回FDフォーラム

大学教育の「場」を問い直す

2/27（日）9:30～11:30 | 第11分科会 | 定員　80名（加盟校優先定員：48名） | 講義形式 | Zoom ミーティング | 録画あり

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

今後の少子高齢化社会及びグローバル化の進展の中、高等教育機関にもまたその存在意義の問い直しが求められている。また、大学等連携推進法人制度の導入準備も進み、個々の大学の個別の実践だけでなく、大学間連携による質の向上も課題の一つとしてあげられる。本分科会では、地域特性を反映した学びの場づくりの実践として各地で展開されてきた単位互換制度に関する大学コンソーシアム京都による全国調査の結果をもとに、大学教育に関するネットワーキングの未来を展望する。

コーディネーター	山口 洋典氏	立命館大学 共通教育推進機構 教授
報告者	中元 崇氏	京都大学 情報部 掛長
	山咲 博昭氏	広島市立大学 企画室 特任助教
コメンテーター	中水 かおる氏	一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸 統括コーディネーター

https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum

当日の構成

9:30	趣旨説明 山口 洋典 氏
9:40	調査報告「各大学等における単位互換等のあり方調査」 中元 崇 氏
10:00	結果解題「質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来」 山咲 博昭 氏
10:20	コメント 中水 かおる 氏
10:35	休憩
10:45	論点整理
10:50	総合討論
11:20	まとめ

オンラインサロン（読書会兼インタビュー）

		テーマ	文献（副題を省略）	話題提供	登録
1	5/15	単位互換と カリキュラムマネジメントと 文部科学省答申	山咲博昭ほか（2020）「カリキュラムアセスメントの導入とその実践」岡山理科大学教育実践研究(4), 101-112.	山咲博昭（広島市立大学）	22名
2	6/18	単位互換と 大学コンソーシアムと アンケート調査（秋田を事例に）	細川和仁ほか（2015）「単位互換制度にみる学生の学習に対する意識」秋田大学教養基礎教育研究年報(17), 99-106.	中元崇（京都大学）	10名
3	7/27	単位互換と京都学生祭典と パッケージ科目	大江淳良（2006）「大学コンソーシアムの現在―大学間連携―」高等教育研究(9), 61-78.	乾明紀（京都橘大学）	14名
4	9/16	単位互換と寄附講座と 大学院教育	川中大輔・新川達郎（2019）「コミュニティ・デザイン新論――「包摂か排除か」を越えて」情報誌CEL(123), .20-25.	川中大輔（龍谷大学） 新川達郎（同志社大学） 弘本由香里（大阪ガス）	12名
5	10/27	単位互換と インターンシップと 地学連携	中村 正・杉野 幹人・景井 充（2016）「「教育から学習へ」のパラダイム・チェンジとFD」2015年度大学コンソーシアム京都「第21回FDフォーラム報告書」249-273.	中村正（立命館大学）	14名
6	1/28	障害学生支援と単位互換	萩原彩子ほか（2013）「コーディネーター連携事業における取り組みとその成果」筑波技術大学テクノレポート 21(1), 1-6. 熊本3大学（2018)「熊本4大学連携による減災型地域社会のリーダー養成プログラム」内閣官房(編)「国土強靱化 民間の取組事例集」494-496.	土橋恵美子（同志社大学） 日下部隆則（同志社大学） 吉村千恵（元･熊本学園大学）	13名
7	2/24	世界遺産とPBL	笠井賢紀（2017）「地域協働教育によるコミュニティリーダーの育成」龍谷大学社会学部紀要 (50), 50-61.	笠井賢紀（慶應義塾大学） 桜井政成（立命館大学）	12名

- 毎回、Googleドキュメントにメモを作成、参加者のみに共有。対話内容は分析に活用。

全国の大学・短期大学における単位互換科目のあり方について

中元 崇（京都大学）

1

自己紹介

- 大学コンソーシアム、複数の大学、大学評価機関等の多様な所属経験
  - 大学コンソーシアム京都（2004年4月～2007年3月）
- 社会人大学院で高等教育を専攻
  - 博士（教育）（名古屋大学、2021年2月）
- 研究・実践の主なテーマ
  - 「SD／職員の能力開発」
  - 「大学間の提携」など高等教育に関するもの
- 詳細はリサーチマップ参照
  - https://researchmap.jp/nkmt/

2

大学連携の主な著作

学術論文等名	発行年	概要
岩崎保道・中元崇「大学コンソーシアムにおける地方自治体の役割と機能」pp.79-90、『大学行政管理学会誌』第12号	2008年	自身が研究代表者となり、岩崎保道氏と共同執筆。ヒアリング調査を基に、地域型大学コンソーシアムに地方自治体が資源拠出するロジックを解明した。
中元崇「大学連携―大学コンソーシアムを中心として―」pp.109-131、岩崎保道編、『大学政策論』大学教育出版	2011年	全11章を9名で分担執筆。うち第6章を担当。大学連携・大学コンソーシアムの定義や大学コンソーシアムの発展と国・地方行政の関わりなどについて、これまでの研究結果を基に解説した。
中元崇「大学間提携の研究における分析枠組について―戦略的提携論からの示唆を中心に―」pp53-61、『大学行政管理学会誌』第15号	2011年	2011年9月の発表を基に、高等教育機関の提携に関する先行研究の整理を行い、経営学等他分野における組織間提携の研究・議論（特に経営学における）の知見を高等教育分野へ導入した。
中元崇「日本の地域型大学コンソーシアムの事業数に影響する要因は何か―要因への関与可能性に着目して―」pp79-93、『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』第62巻第1号	2015年	地域型大学コンソーシアムの経営活動として事業数に注目し、その事業数に影響を与えると考えられる要因の解明を行った。またそうした要因への大学コンソーシアム側の関与可能性を考察した。
中元崇「大学間提携の戦略的活用」pp.73-87、岩崎保道編、『大学の戦略的経営手法』大学教育出版	2016年	全12章を13名で分担執筆。うち第6章を担当。大学間提携の定義や各大学における機能を解説するとともに、別途ヒアリング調査を実施し、その知見を提示した。

3

各大学等における単位互換等のあり方調査

- 目的
  - 単位互換制度のあり方を考えるうえで、各大学等の現時点の状況や考えを把握する
- 対象
  - 全国の大学・短期大学1080校（大学院大学、専門職大学・短期大学は含まない）を対象
- 回答方法
  - Web回答または郵送回答
- 有効回答数
  - 405件

4

Q3. 貴学では大学コンソーシアムへの加盟による単位互換に取り組んでいますか？

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a）大学全体で実施	57.4%	216	89.7%	26	59.8%	242
b）一部の学部・学科等で実施	6.1%	23	10.3%	3	6.4%	26
c）実施していない	36.4%	137	0.0%	0	33.8%	137
総計	100.0%	376	100.0%	29	100.0%	405

- 6割強の大学等が大学コンソーシアム型の単位互換を実施

5

Q4.貴学の学生が他大学の単位互換科目を履修した場合、どのように認定していますか？（複数回答可）

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a）共通科目相当として単位認定	63.2%	151	75.9%	22	64.6%	173
b）専門科目相当として単位認定	39.3%	94	17.2%	5	36.9%	99
c）その他の科目相当として単位認定	47.3%	113	31.0%	9	45.5%	122
d）単位認定しない	3.3%	8	3.4%	1	3.4%	9

- 共通科目相当として単位認定を行う割合が高い（6割強）が、専門科目相当として扱う割合も一定程度ある（4割弱）。
- なお、本問は各小項目ごとに認定を問うたものである
  - 例えば科目の内容に応じて、共通科目相当認定したり、専門科目相当認定したりする場合、a）とb）の両方において認定するという回答となる

6

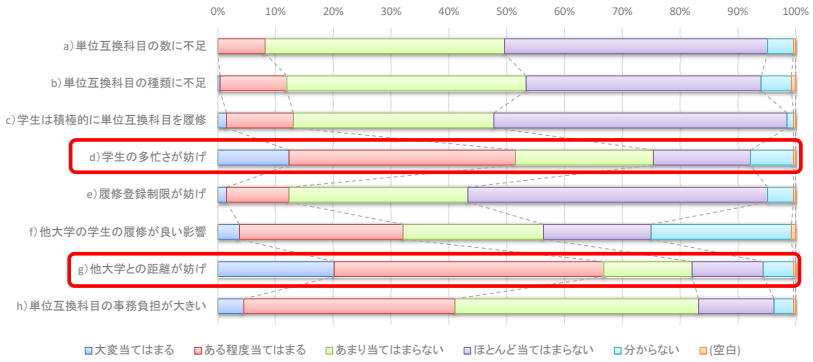
Q5. 貴学では各学期において単位互換科目の履修登録単位数を制限していますか？

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a）全学的に制限の対象としている	33.5%	80	51.7%	15	35.4%	95
b）制限の対象としている学部・学科等もあるがそうでない学部・学科等もある	5.0%	12	3.4%	1	4.9%	13
c）全学的に制限の対象としていない	61.5%	147	44.8%	13	59.7%	160
(空白)	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
総計	100.0%	239	100.0%	29	100.0%	268

- 単位互換科目の履修が、各大学等のキャップ制（履修登録単位数の制限）の対象となるかどうかについて問うたものである。キャップ制の対象としていない大学等が6割弱となっている。

7

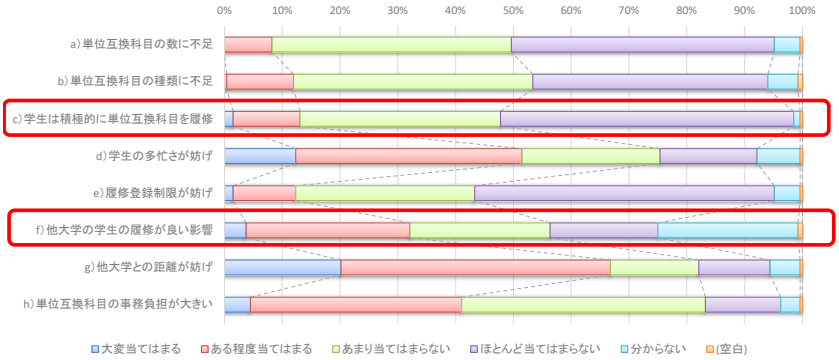
Q6. 単位互換の現状に関してどのようにお考えですか？①



- 時間的な抑制要因（学生の多忙さや他大学との距離）がより大きなものとして捉えられている

8

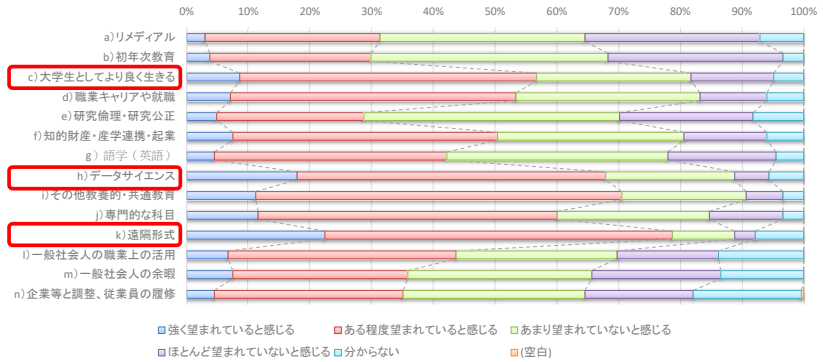
Q6. 単位互換の現状に関してどのようにお考えですか?②



- 多様な学生の交わり・つながりによるケミストリが十分に生じていない可能性
- 学生が積極的に学外の単位互換科目を履修しているとは認識されていない
  - 人生百年時代において、学び続けるスタイルを身につけてもらうことも大学に期待される役割ではないだろうか。
  - そのような観点から単位互換のあり方をリ・デザインすることも考えられるのではないだろうか。

9

Q7. 大学コンソーシアム型単位互換科目でどのような科目が望まれるとお考えですか?



- 遠隔開講をポジティブに捉える割合は8割弱
- 科目ニーズ
  - データサイエンス
  - 大学生としてより良く生きるための科目(コミュニケーション、メンタル、自己認識など態度や考え方に関する科目)
  - 職業キャリアや就職
  - 知的財産・産学連携・企業

10

Q8. 単位互換科目の履修促進ではどのような方策が望まれるとお考えですか？（複数回答可）

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a）学生への単位互換科目の積極的な説明	49.8%	119	44.8%	13	49.3%	132
b）オンライン形式の科目の提供	79.5%	190	58.6%	17	77.2%	207
c）魅力ある内容の新規科目開発・提供	57.7%	138	51.7%	15	57.1%	153
d）資格等取得に活用できる科目の提供	40.6%	97	27.6%	8	39.2%	105
e）複数科目のパッケージ化	6.3%	15	6.9%	2	6.3%	17
f）卒業要件への組み込み	23.4%	56	24.1%	7	23.5%	63

- 「オンライン形式の科目の提供」は8割弱の選択
- 「複数科目のパッケージ化」はほとんど選択されていない（6%強に留まる）
- 「卒業要件への組み込み」の選択割合は高いとは言えないが、約1/4が選択している。
- 同種の科目を横につなげるという方策ではなく、各大学等のカリキュラムまで縦に結び付ける方策のほうが支持されうるのではないか

11

Q12. 大学等連携推進法人に関してどのような状況ですか？

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a）既に設置している	1.3%	5	0.0%	0	1.2%	5
b）設置に関して具体的な検討を行っている	2.1%	8	0.0%	0	2.0%	8
c）関心はあるが特に具体的な検討は行っていない	61.4%	231	55.2%	16	61.0%	247
d）特に関心を持っていない	33.0%	124	41.4%	12	33.6%	136
(空白)	2.1%	8	3.4%	1	2.2%	9
総計	100.0%	376	100.0%	29	100.0%	405

- 大半の大学等（6割強）が連携法人に対する関心を持っているものの、実際の設置や具体的検討を行っている大学等は数%にとどまっている。
- なお「既に設置している」との回答は5 大学等であったが、文部科学省のWebサイトに掲載されている認定済法人の構成大学と異なる大学も含まれており、おそらく回答の選択ミスと思われる。

12

Q13. 大学等の取り組みの共同・協働についてどのようにお考えですか？

	より一層現状より進めるべきである	ある程度現状より進めるべきである	現状維持でよい	分からない	(空白)	総計
a) 正課科目の共同・協働	11.4%	52.8%	30.1%	4.2%	1.5%	100.0%
b) 課外活動における共同・協働	8.9%	51.9%	31.6%	6.2%	1.5%	100.0%
c) 産学連携における共同・協働	26.2%	53.8%	15.3%	3.2%	1.5%	100.0%
d) 地域連携における共同・協働	35.3%	47.9%	12.1%	3.0%	1.7%	100.0%

- 大学等相互の連携に比べ、産学連携や地域連携はより一層現状より進めるべきとする回答が多い。

13

今後の方向性

- 各大学等のカリキュラムとの結合・連携を図る方向性
  - Q8で「卒業要件への組み込み」を約1/4が選択
  - 既存の開設科目を開放ではなく、より精緻に関係大学等の連絡・調整のうえで開講
- オンライン（遠隔）形式の拡充を図る方向性
  - コロナ禍でのオンラインでの開講・受講のノウハウの蓄積
  - ノウハウを活かし、時間・距離の問題に捉われない授業を一定数開設
- 単位互換科目のケミストリを追及する方向性
  - 他大学・自大学の学生のケミストリは自動的に生じない
  - 放っておいても自大学の学生が他大学に出向かない
    - 大学時報2020年5月号「特集　大学間による学生交流（国内留学制度）の現状と課題」参照
    - https://daigakujihou.shidairen.or.jp/list/contents/?jihou=392
  - ケミストリが生じる条件を想定し、そのように授業設計したり学生を募集するなど積極的なコーディネートが必要
    - 西日本学生リーダーズ・スクール（UNGL）
    - https://ungl.opar.ehime-u.ac.jp/

14

最後に

- 教育する側には質保証は大事
  - カリキュラムの精緻化は是
    - 「体系的・段階的・継続的」「スコープとシーケンス」などの観点を持って
  - 個別大学のカリキュラムと積極的に接続する単位互換は是
- 学習する側にとっても常に当てはまるのか？
  - 常に即時的に有用性を説明しうる学びばかりでよいのか？
  - 即興的・興味関心が駆動する学びごころの行く先は？
  - 野生の学び（「ブリコラージュ」としての学びやその活用）
- 質保証の対極–モグリ
  - 私的経験から
- 一つのビオトープとしての単位互換制度
  - ある人にとって「刺さる」、さらに人生航路の変更につながることもある。全然そうではなく単に忘却されることもある。
  - 単位互換制度はどちらとも許容しうる制度
  - 変化の有無は制御し得ないが、そのような環境を維持することは可能なはず
  - そうしたものとして維持・継続することも大切ではないか（大学人としての矜持）

15

大学コンソーシアム京都FDフォーラム第11分科会報告資料
日時：2022（令和4）年2月27日（日）9：30～11：30

質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来

広島市立大学　企画室
特任助教　山咲　博昭
（h-yamasaki@hiroshima-cu.ac.jp）

自己紹介

山咲　博昭（やまさき　ひろあき）

- 公立大学法人広島市立大学　企画室　特任助教（2019年4月～）

- 関西大学文学部総合人文学科心理学専修卒業（2010年3月卒業）
- 学校法人関西大学　専任事務職員（2010年４月～2019年３月）
  - ➢学事局教務事務グループ（４年間）
  - ➢公益財団法人大学基準協会への出向（２年間）
  - ➢総合企画室企画管理課（３年間）
    - ◘自己点検・評価、第3期機関別認証評価等の対応
    - ◘教学IRプロジェクトへの参画
    - ◘データブックの取りまとめの実施

≪専門分野≫
高等教育（大学評価／人的資源管理）

≪転機≫
母校の初年次教育
⇒学生が成長するきっかけに興味を持つ

- 現在、企画室にてIR担当教員として従事している。

質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来

（1）単位互換に係る質保証・大学評価

（2）調査結果から読み解く「単位互換の未来」

広島市立大学 Hiroshima City University

単位互換に係る質保証・大学評価（政策動向）

答申	審議まとめ等
2005年１月　中教審答申 「我が国の高等教育の将来像」	
2008年12月　中教審答申 「学士課程教育の構築に向けて」	2012年6月 文科省「大学改革実行プラン」
2012年8月　中教審答申 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」	2014年２月　中教審・大学分科会 「大学のガバナンス改革の推進について」（審議まとめ）
2014年12月　中教審答申 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」	2015年1月 文科省「高大接続改革実行プラン」 2016年3月 高大接続システム改革会議「最終報告」 2016年3月　中教審・大学分科会・大学教育部会 「三つの方針の策定及び運用に関するガイドライン」 2016年3月　中教審・大学分科会 「認証評価制度の充実に向けて（審議まとめ）」
2018年11月　中教審答申 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」	**2019年12月　中教審・大学分科会 教学マネジメント特別委員会「教学マネジメント指針」**

広島市立大学 Hiroshima City University

単位互換に係る質保証・大学評価（教学マネジメント指針）

教学マネジメントの定義

- 「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」。

教学マネジメントの確立に向けた取組み

- 三つの方針に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（学位プログラム）で点検・評価し、改善に取組むこと

単位互換に係る言及

- 自学の学生や**単位互換を行う他大学等**、学内外に対し自学の学位プログラムにおける個々の授業科目の教育課程上の水準と学位プログラム全体の体系性を明らかにする観点から「ナンバリング」を実施することが必要である。

単位互換科目を含めた**学位プログラム全体の体系性**の明確化が求められている。

5

単位互換に係る質保証・大学評価（教学マネジメント指針）

学修成果・教育成果の把握・可視化の目的

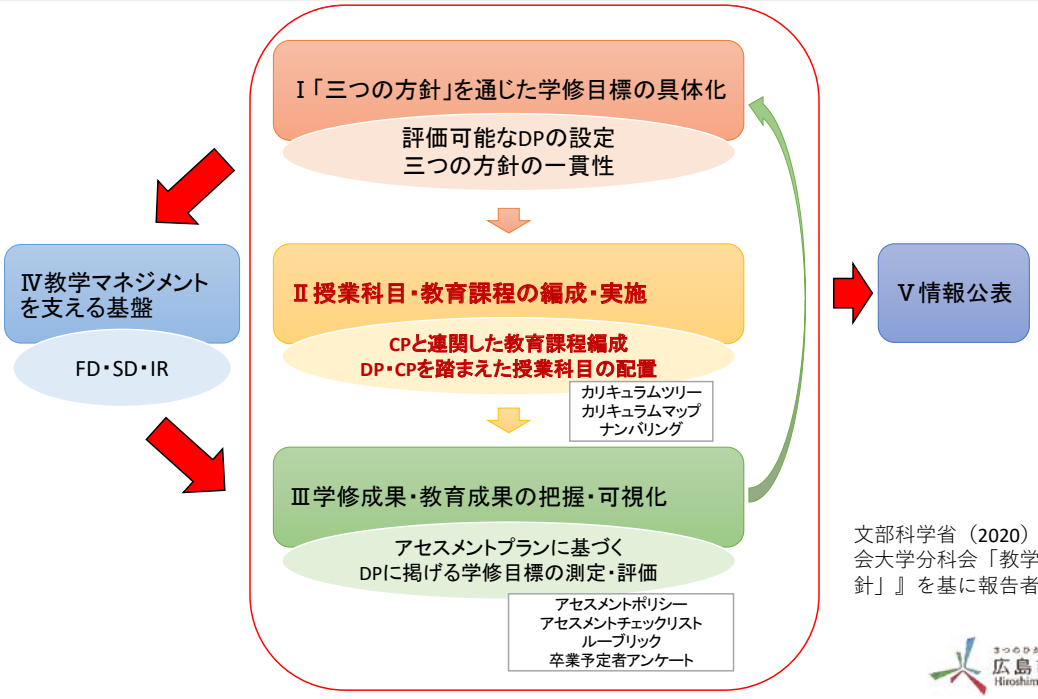
- 一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）として身に付けた資質・能力を自覚できるようにすることが重要である。このため、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を可視化されたエビデンスとともに自ら説明できるようにすること。
- 大学が「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）を学修成果と同様に説明できるようにすること。

「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の達成度合いをエビデンスを交えて説明できること
→**単位互換科目**と**DPとの関係性**をどのように整理するかが課題となっている。

広島市立大学 Hiroshima City University

6

単位互換に係る質保証・大学評価（教学マネジメント指針）



文部科学省（2020）『中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」』を基に報告者作成

広島市立大学 Hiroshima City University

7

単位互換に係る質保証・大学評価（質保証・大学評価）

「単位互換」に言及した評価基準はなく、単位制度や単位認定に係る言及が主であった。

機関別認証評価機関	「単位」等に係る言及
大学基準協会 （「大学基準」及びその解説）	大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、**単位制度の趣旨に沿った措置**を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び**単位認定を経て**、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。
大学改革支援・学位授与機構 （大学評価基準）	適切な授業形態、学習指導の方法が採用されていることについて、主としてシラバスの記載内容、履修登録科目に関する**単位の上限の設定（ＣＡＰ制）**等について、適切であるか否かを判断します。 教育課程方針に基づいて、成績評価基準を学生に周知しており、その基準に従って成績評価、**単位認定**を実施しているか否か、さらに、厳格かつ客観的な成績評価を実施するため、成績評価の適切性の確認や異議申し立ての仕組みを組織的に設けているか否かを判断します。
日本高等教育評価機構 （大学機関別認証評価　評価基準）	**単位授与**や卒業・修了の認定基準を定めて、これを厳正に運用するとともに、教育課程の編成と実施に反映させる必要があります。
大学教育質保証・評価センター （大学評価基準）	成績評価基準及び卒業認定基準、修了認定基準を学生に周知し、それらの基準に従って適切に成績評価や**単位認定**、卒業認定、修了認定を実施しているか。
大学・短期大学基準協会 （大学評価基準）	卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や進学などにつながる学習成果の獲得を保証していることを明確に示す。

8

単位互換に係る質保証・大学評価（論点整理）

- 質保証・大学評価の観点からの「単位互換科目」に係る論点
  1. 学位プログラム全体の**体系性**をどのように担保するのか
     - ◆**教育課程、科目群**等での位置づけ
  2. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との関係性をどのように整理し、**学習成果の把握**・可視化に繋げるのか
     - ◆**カリキュラムマップ、ナンバリング**等での位置づけ
  3. **単位制度**や単位認定に係る整合をどのように図るのか
     - ◆**履修単位上限**との関係性

「教学マネジメント指針」等を含む質保証・大学評価の考えをどこまで「単位互換」に適用するのか。
大学やコンソーシアム組織の双方において、どのよう単位互換の在り方が考え得るのか。

9

質保証・大学評価の観点から見た単位互換の未来

（1）単位互換に係る質保証・大学評価

（2）調査結果から読み解く「単位互換の未来」

調査結果から読み解く「単位互換の未来」

以下の前述の論点と調査結果とを紐付けながら**「単位互換の未来」**を考えていく。

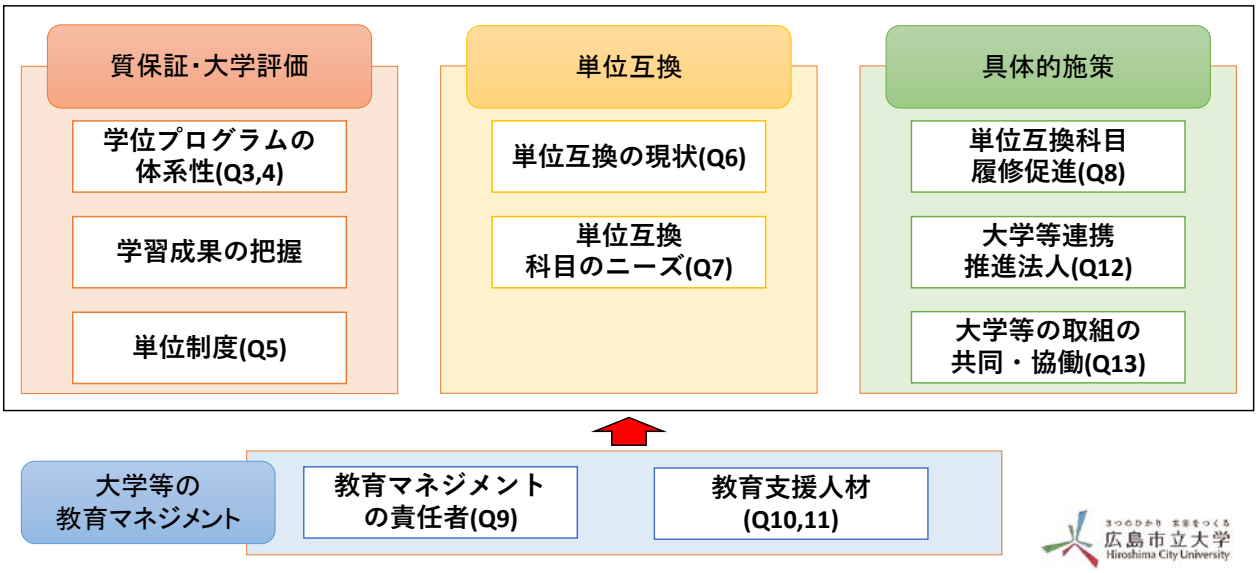
- 質保証・大学評価の観点からの「単位互換科目」に係る論点と関連する**質問項目**
  1. 学位プログラム全体の**体系性**をどのように担保するのか（Q3,Q4,Q6,Q7,Q8）
     - ◆**教育課程、科目群**等での位置づけ
  2. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との関係性をどのように整理し、**学習成果の把握**・可視化に繋げるのか（Q4,Q6,Q7,Q8）
     - ◆**カリキュラムマップ、ナンバリング**等での位置づけ
  3. **単位制度**や単位認定に係る整合をどのように図るのか（Q5,Q6）
     - ◆**履修単位上限**との関係性
- 「単位互換」の在り方に係る論点と関連する**質問項目**
  1. 「教学マネジメント指針」等を含む質保証・大学評価の考えをどこまで「単位互換」に適用するのか。（Q4,Q5,Q7,Q8）
  2. 大学やコンソーシアム組織の双方において、どのような単位互換の在り方が考え得るのか。（Q7,Q8,Q12,Q13）

広島市立大学 Hiroshima City University

11

調査結果から読み解く「単位互換の未来」

「単位互換の未来」を考えるには、質保証・大学評価を意識しつつも、
単位互換に係る**現状、ニーズ等**を踏まえた具体的施策提案が必要となる。

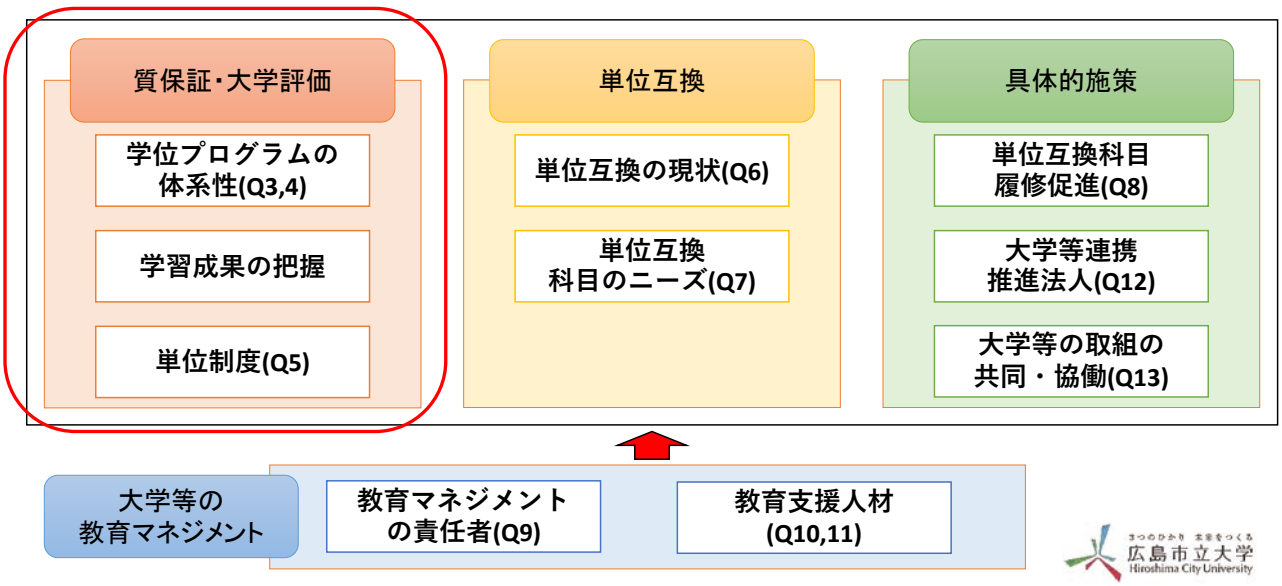


広島市立大学 Hiroshima City University

12

調査結果から読み解く「単位互換の未来」

「単位互換の未来」を考えるには、質保証・大学評価を意識しつつも、
単位互換に係る**現状、ニーズ等**を踏まえた具体的施策提案が必要となる。

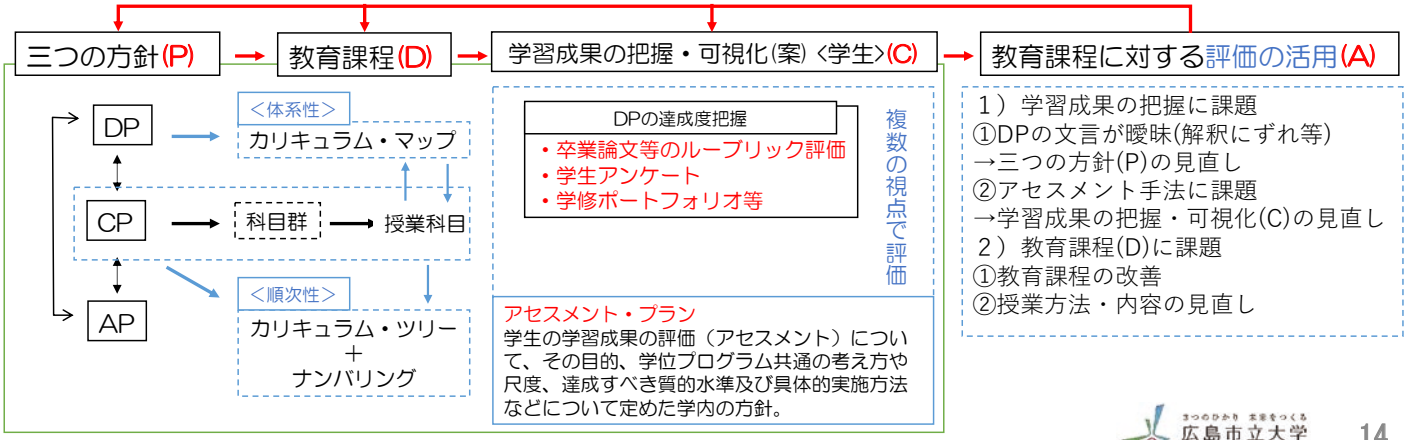


調査結果から読み解く「単位互換の未来」(大学評価・質保証)

大学評価・質保証の観点から、以下の4点が課題となる。
1)DPに掲げる学修目標と単位互換科目がどのように紐づいているのか。
2)CPを踏まえて、教育課程が体系的に編成されているか。
3)単位互換科目を含めてどのように学修成果の把握を行うのか。
4)成績評価基準等を踏まえた単位認定が実施できているのか。

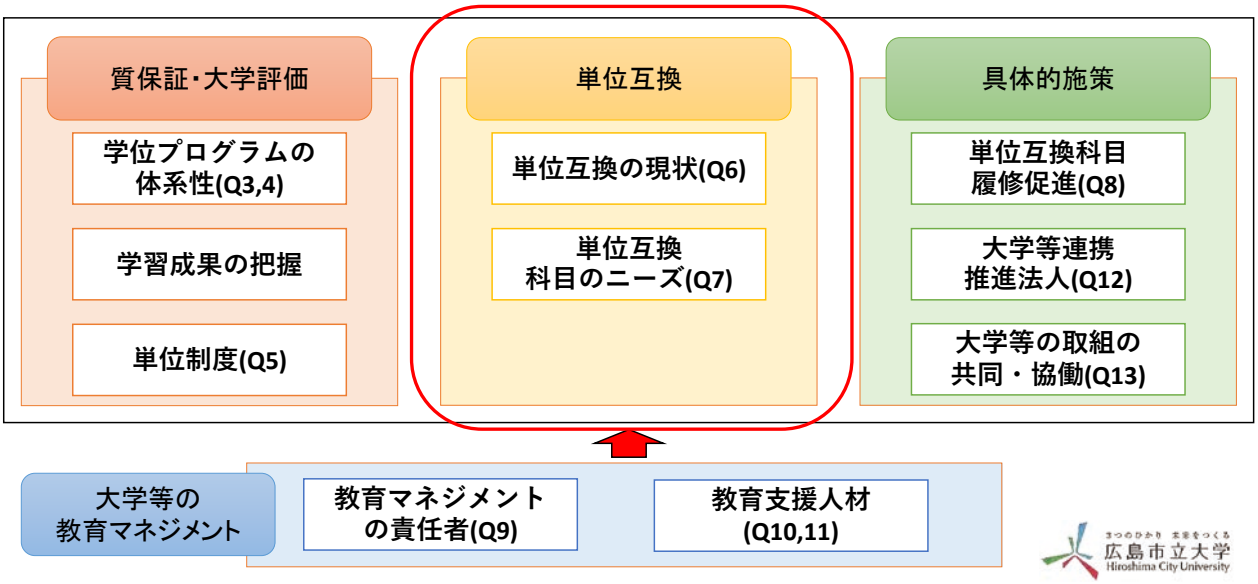
単位互換科目は6割強が**共通科目**、4割弱が**専門科目**として認定。

また、6割弱がキャップ制(履修登録単位数制限)の対象としていない。



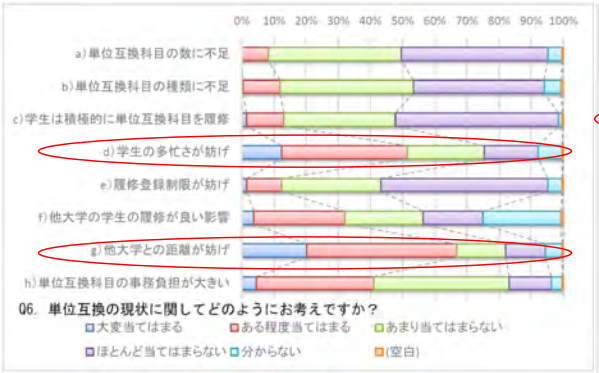
調査結果から読み解く「単位互換の未来」

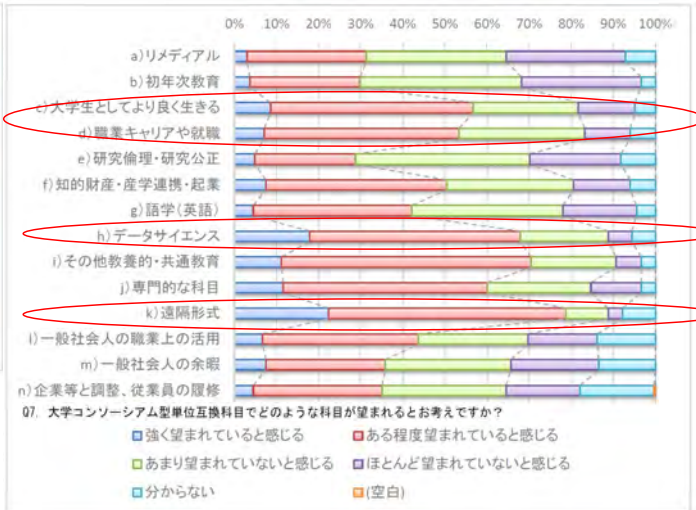
「単位互換の未来」を考えるには、質保証・大学評価を意識しつつも、
単位互換に係る**現状、ニーズ等**を踏まえた具体的施策提案が必要となる。



調査結果から読み解く「単位互換の未来」(課題・ニーズ)

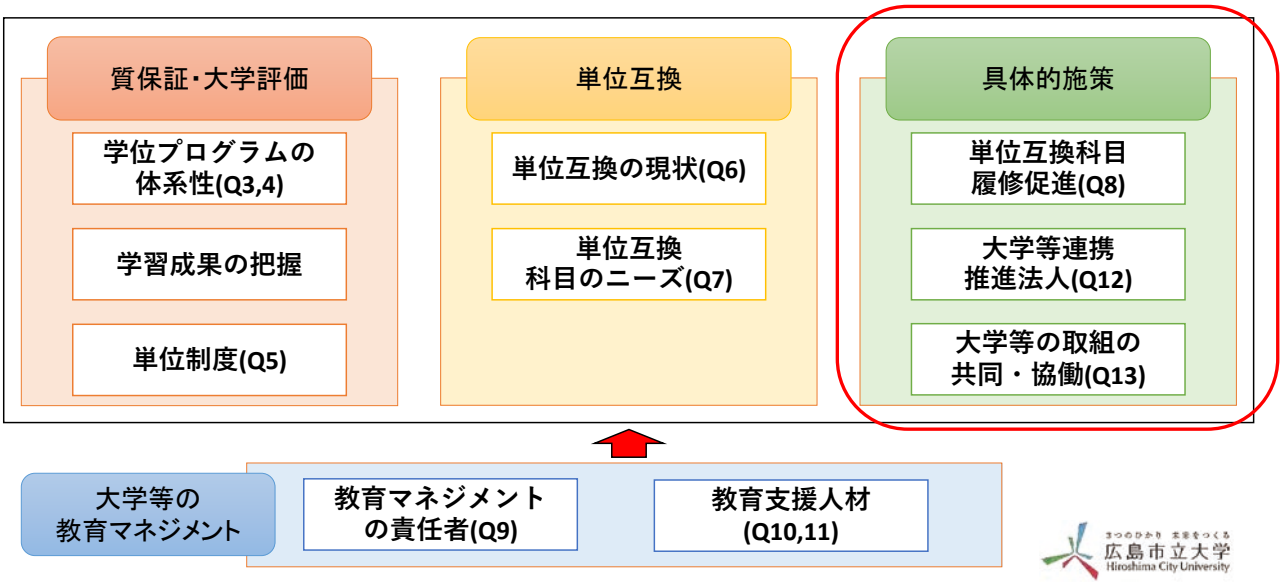
学生の多忙さ、他大学との距離→**“学修時間の確保”**が特に課題
遠隔形式＋特徴のある教育（データサイエンス、大学生としてよりよく生きる、キャリア等）
⇒①単独開講が難しい、②学生相互の交流による効果がある科目を**選択科目**等で提供するのも一つ？
⇒特に②は自大学開講＋単位互換の組み合わせるのも一つ（前期：自大学受講、後期：単位互換受講）。





調査結果から読み解く「単位互換の未来」

「単位互換の未来」を考えるには、質保証・大学評価を意識しつつも、
単位互換に係る**現状、ニーズ等**を踏まえた具体的施策提案が必要となる。



調査結果から読み解く「単位互換の未来」(具体的施策)

履修促進は、①オンライン形式、②魅力ある新規科目の開設、③学生への説明がポイント。
⇒この中で、③教育課程の位置づけの仕方、②DPとの関係性の設定、を踏まえると**実施主体**が決まる。
⇒また、DPに掲げる学修目標やCP等の内容が近い大学間での**共同開発**、**単位互換**が考えられる。
⇒産学連携、地域連携における共同・協働で**正課科目の教育(PBL科目等)**を含めることはできないか？
“単位互換のために”というように**手段が目的化しない**こと、**単位互換の効果**を生かすことが大事！

あくまでもベースとなるのは、
学生が各大学のDPの到達すること、
そのための設計であること！

Q8. 単位互換科目の履修促進ではどのような方策が望まれるとお考えですか？（複数回答可）

	京都府以外		京都府のみ		全体	
a)学生への単位互換科目の積極的な説明	49.8%	119	44.8%	13	49.3%	132
b)オンライン形式の科目の提供	79.5%	190	58.6%	17	77.2%	207
c)魅力ある内容の新規科目開発・提供	57.7%	138	51.7%	15	57.1%	153
d)資格等取得に活用できる科目の提供	40.6%	97	27.6%	8	39.2%	105
e)複数科目のパッケージ化	6.3%	15	6.9%	2	6.3%	17
f)卒業要件への組み込み	23.4%	56	24.1%	7	23.5%	63

※b) は京都府・府外と5%水準の有意差あり。

Q12. 大学等連携推進法人に関してどのような状況ですか？

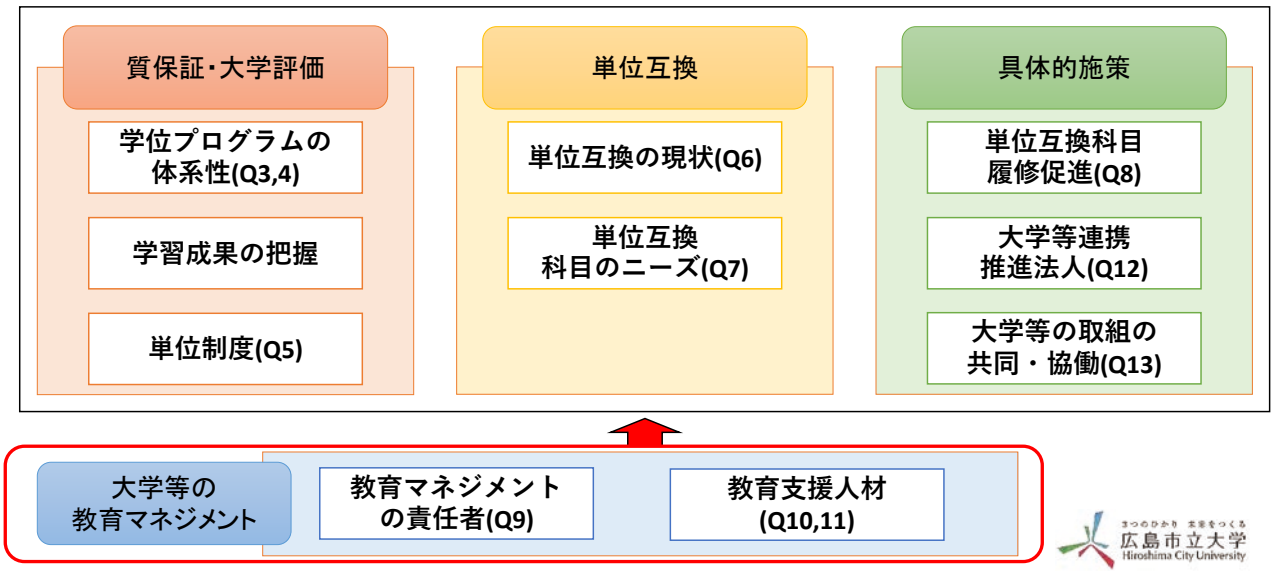
	京都府以外		京都府のみ		全体	
a)既に設置している	1.3%	5	0.0%	0	1.2%	5
b)設置に関して具体的な検討を行っている	2.1%	8	0.0%	0	2.0%	8
c)関心はあるが特に具体的な検討は行っていない	61.4%	231	55.2%	16	61.0%	247
d)特に関心を持っていない	33.0%	124	41.4%	12	33.6%	136
(空白)	2.1%	8	3.4%	1	2.2%	9
総計	100.0%	376	100.0%	29	100.0%	405

Q13. 大学等の取り組みの共同・協働についてどのようにお考えですか？

	より一層現状より進めるべきである	ある程度現状より進めるべきである	現状維持でよい	分からない	(空白)	総計
a)正課科目の共同・協働	11.4%	52.8%	30.1%	4.2%	1.5%	100.0%
b)課外活動における共同・協働	8.9%	51.9%	31.6%	6.2%	1.5%	100.0%
c)産学連携における共同・協働	26.2%	53.8%	15.3%	3.2%	1.5%	100.0%
d)地域連携における共同・協働	35.3%	47.9%	12.1%	3.0%	1.7%	100.0%

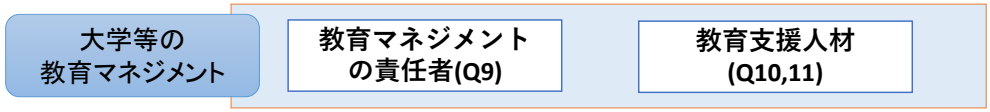
調査結果から読み解く「単位互換の未来」

「単位互換の未来」を考えるには、質保証・大学評価を意識しつつも、
単位互換に係る**現状、ニーズ等**を踏まえた具体的施策提案が必要となる。



調査結果から読み解く「単位互換の未来」(教育マネジメント)

大学等の教育マネジメントには**「学内関係者との調整能力」**が特に必要。
⇒単位互換を含む教育プログラムの調整が困難？実施主体が不明確？関係する組織がない？
⇒大学とコンソーシアム組織との双方の役割分担ができていない？どちらか主導するか不明確？



Q9. 大学等の教育マネジメントの責任者のあり方についてどのようにお考えですか？

	大変必要である	ある程度必要である	あまり必要でない	ほとんど必要でない	分からない	(空白)	総計
a)高等教育情勢に関する広範な知識	61.7%	37.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	100.0%
b)学内の各学部・学科等に関する深い理解	62.0%	36.0%	1.5%	0.2%	0.0%	0.2%	100.0%
c)迅速な行動力	49.4%	47.4%	1.7%	0.2%	1.0%	0.2%	100.0%
d)学部長等の学内要職の経験	18.5%	60.7%	18.0%	0.7%	1.5%	0.5%	100.0%
e)カリキュラム改革や新規教育企画等における発想力	45.2%	51.1%	3.0%	0.2%	0.2%	0.2%	100.0%
f)状況の曖昧さに耐える能力	18.5%	56.8%	15.8%	0.7%	7.7%	0.5%	100.0%
g)学内関係者への高等教育情勢等の情報の伝播	42.5%	52.3%	4.7%	0.2%	0.0%	0.2%	100.0%
h)学内関係者との調整能力	69.1%	30.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
i)教育面における学長の補佐としての役割	53.6%	40.2%	4.0%	1.2%	0.7%	0.2%	100.0%
j)教育マネジメントのための強い権限の保持	30.1%	58.3%	9.6%	0.2%	1.5%	0.2%	100.0%
k)責任者を補佐・支援する人材の配置	55.1%	42.2%	1.5%	0.2%	0.7%	0.2%	100.0%

Q10. 大学等の教育支援人材に求められる能力や行動についてどのようにお考えですか？

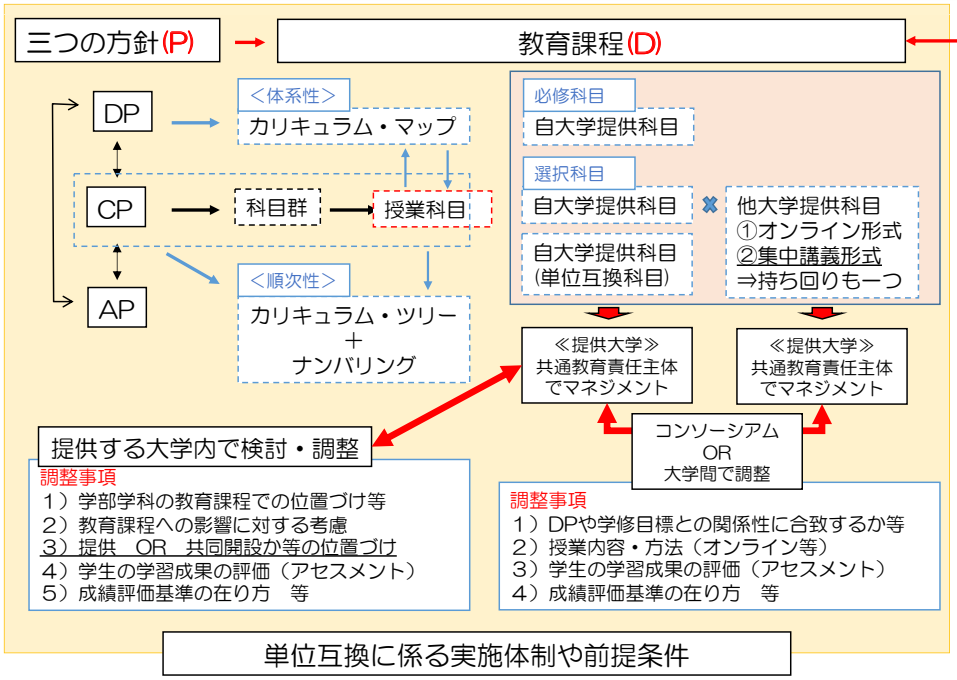
	大変必要である	ある程度必要である	あまり必要でない	ほとんど必要でない	分からない	(空白)	総計
a)高等教育情勢に関する広範な知識	58.5%	41.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
b)学内の各学部・学科等に関する深い理解	53.3%	44.4%	1.5%	0.2%	0.2%	0.2%	100.0%
c)迅速な行動力	57.8%	40.0%	1.7%	0.0%	0.5%	0.0%	100.0%
d)学部長等の学内要職の経験	6.9%	37.3%	45.4%	8.6%	1.7%	0.0%	100.0%
e)カリキュラム改革や新規教育企画等における発想力	50.4%	47.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
f)状況の曖昧さに耐える能力	22.2%	51.1%	18.3%	2.0%	6.4%	0.0%	100.0%
g)学内関係者への高等教育情勢等の情報の伝播	43.2%	48.1%	7.9%	0.2%	0.2%	0.2%	100.0%
h)学内関係者との調整能力	59.3%	36.3%	4.2%	0.2%		0.0%	100.0%
i)教育支援や教育マネジメント等に関する専門的な知識・経験	47.7%	49.6%	2.2%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%

調査結果から読み解く「単位互換の未来」（まとめ①）

- 大学とコンソーシアム組織との関係性
  - ➢学修者本位を踏まえると、**大学が主体**となる。また、**大学間の調整の主体はコンソーシアム組織等**となる。
    - ◆加盟大学の学修目標等を含めた教育に対する理解を深める必要がある。
    - ◆それぞれの大学のDPに掲げる学修目標等を踏まえた大学間のコーディネートを行う必要がある。
- 大学における単位互換科目の位置づけ
  - ➢単位互換を含む共通科目等の**学内のマネジメントを行う組織**を明確にする必要がある。
    - ◆学部学科のDPに掲げる学修目標の到達に寄与するため、教育課程に単位互換科目を含めるかを助言・支援する必要がある。
    - ◆教育課程の編成に際しては単位互換の効果を最大限に活用できるようにする必要がある。
    - ◆教育課程、授業内容・方法に決定権がない他大学開設科目は大学間の調整を行うとともに、自大学の教育課程の影響を考慮する必要がある。
    - ◆産学連携、地域連携における共同・協働で正課科目の教育（PBL科目等）を含めることも検討する必要がある。
  - ➢学修時間の確保の観点から、**オンライン形式を採用する**等の対応が必要である。
- 質保証・大学評価の観点
  - ➢単位互換を行う大学間で**アセスメント方法**や**成績評価基準**について共通認識をもつ必要がある。

広島市立大学 Hiroshima City University

調査結果から読み解く「単位互換の未来」（まとめ②）



遠隔形式＋特徴のある教育（データサイエンス、大学生としてよりよく生きる、キャリア等）の提供
1）単独開講が難しいか
2）学生相互の交流による効果が大きいか

産学連携、地域連携における共同・協働で**正課科目の教育（PBL科目等）**を提供

広島市立大学 Hiroshima City University

引用・参考文献

- 大学改革支援・学位授与機構（2020）『大学機関別認証　大学評価基準』
- 大学基準協会（2020）『「大学基準」及びその解説』
- 大学教育質保証・評価センター（2019）『大学評価基準』
- 大学・短期大学基準協会（2019）『大学評価基準』
- 日本高等教育評価機構（2018）『大学機関別認証　評価基準』
- 文部科学省（2020）中央教育審議会大学分科会『教学マネジメント指針』

大学間連携と単位互換

単位互換リーディングサークルに参加して

大学コンソーシアム京都　第27回FDフォーラム（2022年2月27日）
第11分科会「大学教育におけるつながりのリ・デザイン」

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
中水かおる

議論に向けて

話題提供者・参加者の皆さんとお話ししたいこと

- 大学間連携（コンソーシアム）で「学生を教育する」ことが必要ですか？
- 単位互換でしか実現できない「学び」と「学び場」はどんなことですか？
- 自学で単位互換科目を選定、デザインする時、何を重視されていますか？
- コンソーシアムの単位互換の難しさ、期待することは、何ですか？

ご意見あればどのようなことでも、お伝えいただけましたら幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。
以上です

本日の内容

1、大学コンソーシアムひょうご神戸　プロフィール

2、大学コンソーシアムひょうご神戸の単位互換事業

3、単位互換リーディングサークルに参加して

4、議論に向けて

今後のコンソーシアムにおける大学間連携の役割、単位互換について
さまざまにご意見交換できる場となれば幸いです。

3

大学コンソーシアムひょうご神戸　プロフィール

加盟校所在地図（本部）

■正会員：兵庫県下39校
　31大学　7短期大学・短期大学部、1高等専門学校
■特別会員：1法人
■賛助会員：21企業・団体
■事務局：兵庫県神戸市（兵庫国際交流会館内）

兵庫県データ（2021年6月1日現在）

■面積（全国12位）
　8,400.95平方キロメートル

■推計人口（全国7位）
　5,446,455人

■加盟校学生数：約10.8万人
（内留学生数：約4400人）

大学が集積する神戸市・西宮市を
含む、県内14市郡の広範囲に
加盟校が立地するコンソーシアム

大学コンソーシアムひょうご神戸　ホームページ　http://www.consortium-hyogo.jp/

4

大学コンソーシアムひょうご神戸　加盟校所在地

西宮市エリア

© Presentation Design

5

大学コンソーシアムひょうご神戸　加盟校一覧

法人番号	法人名	正会員名	
1	独立行政法人　国立高等専門学校機構	1	明石工業高等専門学校
2	学校法人　芦屋学園	2	芦屋大学
3	学校法人　大手前学園	3	大手前大学
		4	大手前短期大学
4	学校法人　濱名山手学院	5	関西国際大学
5	学校法人　関西金光学園	6	関西福祉大学
6	学校法人　関西学院	7	関西学院大学
		8	聖和短期大学
7	学校法人　甲南学園	9	甲南大学
8	学校法人　甲南女子学園	10	甲南女子大学
9	国立大学法人　神戸大学	11	神戸大学
10	学校法人　都築学園	12	神戸医療福祉大学
11	学校法人　海星女子学院	13	神戸海星女子学院大学
12	学校法人　神戸学院	14	神戸学院大学
13	学校法人　谷岡学園	15	神戸芸術工科大学
14	学校法人　八代学院	16	神戸国際大学
15	公立大学法人　神戸市外国語大学	17	神戸市外国語大学
16	公立大学法人　神戸市看護大学	18	神戸市看護大学
17	学校法人　松蔭女子学院	19	神戸松蔭女子学院大学
18	学校法人　神戸女学院	20	神戸女学院大学

法人番号	法人名	正会員名	
19	学校法人　行吉学園	21	神戸女子大学
		22	神戸女子短期大学
20	学校法人　親和学園	23	神戸親和女子大学
21	学校法人　玉田学園	24	神戸常盤大学
		25	神戸常盤大学短期大学部
22	学校法人　神戸薬科大学	26	神戸薬科大学
23	学校法人　頌栄保育学院	27	頌栄短期大学
24	学校法人　園田学園	28	園田学園女子大学
		29	園田学園女子大学短期大学部
25	学校法人　平成医療学園	30	宝塚医療大学
26	学校法人　弘徳学園	31	姫路大学
27	学校法人　獨協学園	32	姫路獨協大学
28	学校法人　睦学園	33	兵庫大学
		34	兵庫大学短期大学部
29	学校法人　兵庫医科大学	35	兵庫医療大学
30	国立大学法人　兵庫教育大学	36	兵庫教育大学
31	兵庫県公立大学法人	37	兵庫県立大学
		38	芸術文化観光専門職大学
32	学校法人　中内学園	39	流通科学大学

6

大学コンソーシアムひょうご神戸について

HP・Facebook・You Tube・Note もご覧ください

・公式HP

http://www.consortium-hyogo.jp/

下記リンクも！

・Facebook

https://www.facebook.com/conso.hyogo.kobe/

・You Tube

https://www.youtube.com/channel/UCB5C5gxoFnCEXlHwlKwVuGg/videos

・note

https://note.com/consohyogo/

大学コンソーシアムひょうご神戸 6事業委員会（2021年度）

国際交流委員会

委員長校：神戸大学　副委員長校：神戸常盤大学

①学生派遣プログラム学生海外派遣プログラム
②兵庫県国際交流会館における国際交流拠点事業

学生交流委員会

委員長校：神戸親和女子大学　副委員長校：甲南大学

①学生プロジェクト事業（キッズフェスティバル）
②学生災害ボランティア・ネットワーク事業

教育連携委員会

委員長校　：兵庫県立大学
副委員長校：大手前大学 兵庫医療大学

①単位互換事業（単位互換プログラム）
②多様な学修機会の提供事業

キャリア委員会

委員長校　：関西学院大学
副委員長校：甲南女子大学 神戸国際大学 関西福祉大学
①地元就職促進プロジェクト ②県内企業情報発信強化
③地域産業ニーズ調査　④留学生支援プログラム
⑤留学生活用事業　⑥職業観形成プログラム

高大連携委員会

委員長校　：関西国際大学
副委員長校：神戸松蔭女子学院大学

①高大連携事業（ひょうご高校大学コンソーシアム）

ＦＤ・ＳＤ委員会

委員長校　：神戸学院大学
副委員長校：兵庫大学、神戸薬科大学
①公開FD・SDセミナー　②講演会の開催
③人材バンク　④「大学運営」の受講支援
⑤『内部質保証システム』構築に向けたIRの推進

大学コンソーシアムひょうご神戸　単位互換事業について

「教育連携委員会」2020年度事業計画より

【目的】県下大学の教育事業についての相互連携や教育資源活用に関する相乗効果を図る。
教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、
教育効果の向上を目指す。
学生が所属大学の垣根を越えた学びに対し、単位認定の道を開くことで、
コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

【内容】

1．単位互換事業：集中講義及び特色のある科目による単位互換制度の実施

2．多様な学修機会の提供事業

（1）ICTを活用した学修機会の提供に向けた試行実施及び本格実施の検討

（2）医療・看護系学生向けプログラムの実施

大学コンソーシアムひょうご神戸単位互換事業について

中長期計画１期（2017-2021）に基づく「単位互換事業」の位置付け

【課題】高等教育機会の偏在への対応

【達成目標】開講科目数 10 講座（2021年度）

【取組概要】県内の大学に通う学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する

【期待される効果】

（1）多様な学生との交流による教育効果の向上

（2）コンソーシアム事業（国際交流、地域連携、社会連携等）に対する
学生への意識づけの促進

単位互換事業に期待される効果をふりかえると・・

単位互換事業が本格実施された「2011年度　事業計画」より

１）県下大学の教育事業について相互連携の促進が期待できると共に、兵庫県内の教育資源活用の相乗効果によって、県内に多くの受験生や学生を集めることができる。

２）学生の教育活動を通じての交流促進によって、多様な学生との学習経験から、学習動機の強化や教育効果の向上を図ることができる。

３）学生たちが学習活動に参加することに対し、単位認定の道を開くことで、国際交流、高大連携、地域連携、社会連携など、コンソーシアムの他の事業に対する動機付けを強化する方向性が見出される。また各種の事業活動を通じての地域貢献の実現も図ることができるものと期待される。

大学コンソーシアムひょうご神戸単位互換事業について

開設から現在まで12年、主な動き

2010年～2014年　単位互換協定の締結大学と開放科目の拡大期

2014年～2017年　学生が参画しやすい科目提供のあり方を検討

（利便性・選択可能性を高める取組を強化）

2018年～2019年　e-learningの検討

2020年～2021年　コロナ禍での単位互換、今後の展開へ・・

※文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」が与える影響

タイプ３「地域社会への貢献」プラットフォーム型 etc.

※私立改革等総合支援事業タイプ３「地域社会への貢献」プラットフォーム型

令和2年度　調査票より（プラットフォーム共通設問）

３．中長期計画に関する個別取組内容

㉓ プラットフォーム形成大学等の間で、単位互換等に関して以下の取組を実施していますか。

ア プラットフォーム形成大学等間で、授業科目を共同で開発し、提供。

イ 単位互換等の授業科目についてプラットフォーム大学間共通のシラバスの作成。

ウ 単位互換等の授業を提供する共同の施設等（教室を含む）の指定・設置等。

エ プラットフォーム形成大学等間で共有するｅ－ラーニングシステムの導入。

１ ４つ実施している。 ４点

２ ３つ実施している。 ３点

３ ２つ実施している。 ２点

４ １つ実施している。 １点

５ 実施していない。 ０点

・私立大学等改革総合支援事業（文部科学省ホームページ）
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm

・ひょうご産官学連携協議会（大学コンソーシアムひょうご神戸）
採択状況　http://www.consortium-hyogo.jp/sankangaku/

単位互換事業　広報について：学生がポスター・チラシを作成

神戸芸術工科大学が担当　（学生への周知拡大を図るため）

2016

2017~2018

2019

2021

大学コンソーシアムひょうご神戸　単位互換事業について

開設から現在まで12年、主な動き

2010年	5校 19科目：2人	試行
2011年	12校 85科目：5校17人	本格実施
2012年	19校 96科目：4校22人	夏期集中講義プログラムの提供開始
2013年	19校115科目：8校23人	単位互換協定の締結大学と開放科目の拡大
2014年	19校118科目：8校31人	加盟校の約2/3が単位互換「科目開放覚書」締結　※加盟校からの特徴ある科目提供
2015年	6校 14科目：6校18人	通期科目の単位互換を取り止め、集中講義に特化
2016年	5校 13科目：7校14人	学生への周知拡大のため、学生が広報ポスターをデザイン（芸術系大学が担当）
2017年	13校 32科目：4校11人	集中講義に限定せず、特色のある科目に広げて科目開放、
2018年	11校 31科目：4校13人	e-learning活用検討部会を設けて勉強会（取組大学を中心に実施）
2019年	14校 45科目：6校16人	※大学eラーニング協議会（UeLa）との連携（共通基盤教育の案内）
2020年	15校 41科目：3校 8人	新型コロナウイルス拡大防止のため、前期科目開放は中止。後期1科目実施。協定書の見直し
2021年	11校 43科目：8校29人	コロナ禍での単位互換実施、29人中20人が非対面（オンライン17人,オンデマンド3人）

加盟校からの特徴ある科目提供例（ほんの一部です）

2012 夏期集中プログラム開始

芸術・デザイン、臨海実習、農場と食卓、防災などの専門学部を持つ大学から科目提供。合宿型プログラムも開講された

2021　コロナ禍で開講したオンライン講座

単位互換リーディングサークルに参加して①

「気づきと学び、そして、深めたいこと」

第 1 回(5/15)山咲博昭氏(広島市立大学)「単位互換とカリキュラムマネジメントと文部科学省答申」

・学習者中心の教育：社会からの要請を受け、何を身につけたかではなく「何ができるようになったか」に焦点

・教学理念や3ポリシーの反映　etc.

・単位互換の成果：他大学の学生との新たな出会いが「個々の学びのデザイン」に「良い変化」をもたらしうる

→　偶発性をも前提にし、学生が成長するために、教職員がどのような形で貢献できるのか？

第 2 回(6/18)中元崇氏(京都大学)「単位互換と大学コンソーシアムとアンケート調査(秋田を事例に)」

・単位互換に関心があったとしても、なかなか踏み切れない現実。

・学生に「ポートフォリオ作成」を促すことが、他大学での学びへの契機となりうる。

・単位互換だけでなく、FD・SDにも通じる。

→　大学が大学間連携に、どのような価値をおくのか、問われている。

単位互換リーディングサークルに参加して②

「気づきと学び、そして、深めたいこと」

第 3 回(7/27)乾明紀氏(京都橘大学)「単位互換と京都学生祭典とパッケージ科目」

・キャリア教育、FD、産学公連携など、大学コンソーシアムの先進的取組が各大学で行われるように

・学生に対する「教育効果」の理論構築

正統的周辺参加（LPP:Legitimate peripheral participation、レイヴとウェンガー）

「社会的な実践共同体への参加の度合いを増すこと」

計画的偶発性理論（Planned Happenstance Theory、クランボルツ）

・単位化することの弊害、単位化しない活動の魅力

・「起業」の観点でコンソ事業を捉えて、行動する。

・あるものを活かすのもコンソーシアムだが、ないものをつくることもコンソーシアムの価値。

・新しいことをすることで、保守的な学生が変わる。新入社員だけで変わる会社がないように、学生のユニークな発想だけを過度に期待する方がナンセンス。私たちが自ら学生に新しい姿勢を見せていくことも大事。

→　大学間連携（コンソーシアム）で取り組む、学生向け事業の存在意義を今一度、深める必要がある

単位互換リーディングサークルに参加して③

「こんな取り組みを実現するには何が必要なのか？」

第 4 回(9/16)川中大輔氏(龍谷大学)・新川達郎氏(同志社大学)「単位互換と寄附講座と大学院教育」

・「コミュニティ・デザイン論」（企業の寄附講座）→　単位互換科目が独自の大学院科目へ

・大学コンソーシアム京都の特性を活かして、大学・学科単独では開設できない科目ができた。

・先生→生徒という設定ではなく、教員が相互に刺激を受ける。工学系と人文系の先生が共に授業を担当

・科目開設のコーディネーターの重要性

・共同研究の成果をもとに、単位互換科目へと発展

・受講生の期待と科目提供側とのギャップ。学生たちが消化不良、提供側の自己満足に止まっていなかったか？

→「コンソーシアムをコミュニティとして捉える」

→ 学生だけでなく、教員も「学生と共に、学び直し」ている

第 5 回(10/27)中村正氏(立命館大学)「単位互換とインターンシップと地学連携」欠席

単位互換リーディングサークルに参加して④

「こんな取り組みを実現するには何が必要なのか？」

第 6 回(1/28)土橋恵美子氏・日下部隆則氏(同志社大学)・吉村千恵氏(元・熊本学園大学)

「障害学生支援と減災リーダーと地域連携」

・障がい学生に対する取り組みを知ってもらいたい＝単位互換の授業を開発

・レポートではなくラポール

・単位取得目的（科目＜単位）の学生が劇的に変化

・他大学の多様な学生の集まる場がもたらす意義（学生の発言）

「1回生の時に受けていたら、４年間の大学生活がもっと違っていたかもしれない」

・夏期集中科目と通常科目での受講生の変化

・災害と地域づくりということを目的にした、文部科学省事業による大学間連携事業。その後発生した震災対応で大学・学生にとって役立ったにもかかわらず、事業年度修了後の共通教育の仕組みを継続することは困難だった。

→ プログラム開始時に、事前に大学間で事業終了後に向けたデザインをしておくことが重要

→ 教員は学生に何を学んでほしいのか、社会の中で生きる人が学ぶべきことを学べる場としての単位互換科目

単位互換リーディングサークルに参加して⑤

「こんな取り組みを実現するには何が必要なのか？」

第７回(2/24)笠井賢紀先生氏(慶応義塾大学)「世界遺産とPBL」

・大学コンソーシアム京都の単位互換制度で開講されていた科目

・大学間連携による地域参加学習の課題と展望「地域協働教育によるコミュニテイリーダーの育成：京都世界遺産PBL『コミュニティマネジメント特論』」

・過年度の受講生などを授業補助者であるメンターとして起用

・「多様な学生がいたことで、自分の学部ではありえない視点で取り組みを提案してくれる学生がいた。学部特性により、学生に化学反応が起きた」

→ 地域協働教育においては学生間の学力差のみによらない学び合いがある

→ コーディネート担当教員の負荷大、現場と運営の全体デザイン

→ 他大学の学生と学ぶ化学反応、自分の立ち位置・学びの再認識ができる

議論に向けて

話題提供者・参加者の皆さんとお話ししたいこと

・大学間連携（コンソーシアム）で「学生を教育する」ことが必要ですか？

・単位互換でしか実現できない「学び」と「学び場」はどんなことですか？

・自学で単位互換科目を選定、デザインする時、何を重視されていますか？

・コンソーシアムの単位互換の難しさ、期待することは、何ですか？

ご意見あればどのようなことでも、お伝えいただけましたら幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。
以上です